

# 第6期第2回 横浜市子ども・子育て会議〔青少年部会〕

日時：令和5年10月12日（木）10:00～12:00

場所：磯子区青少年地域活動拠点（イソカツ）

## 議事次第

入室（資料確認）

1 開会

2 青少年部長あいさつ

3 委員紹介

4 議事

(1) 令和4年度第2期横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について

(2) 青少年の地域活動拠点づくり事業の効果的実施に向けた検討について

5 情報提供

・「よこはま子ども・若者相談室」の開設について

6 閉会

・事務連絡

〔配付資料〕

・議事次第

・資料1 横浜市子ども・子育て会議青少年部会 委員名簿

・資料2 横浜市子ども・子育て会議青少年部会 事務局名簿

・資料3 令和4年度第2期横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について

・資料4 「青少年の地域活動拠点づくり事業」の効果的実施に向けた検討について

・資料5 横浜市子ども・子育て会議条例

・資料6 横浜市子ども・子育て会議運営要綱

・参考資料1 「よこはま子ども・若者相談室」の開設について

・座席表

第6期 横浜市子ども・子育て会議 青少年部会  
委員名簿

【敬称略 50音順】

任期:令和4年11月1日～令和6年10月31日

	所属・役職 等	氏名
1	横浜市PTA連絡協議会 副会長	くらね みほ 倉根 美帆
2	特定非営利活動法人 アンガージュマン・よこすか 理事長	しまだ のりたか 島田 徳隆
3	静岡県立大学 国際関係学部 教授	つとみ ひろし 津富 宏
4	駒澤大学 総合教育研究部 教授	はぎわら けんじろう 萩原 建次郎
5	横浜市立中学校長会(市場中学校 校長)	ひらもり よしのり 平森 義教
6	横浜市青少年指導員連絡協議会 会長	へんみ しんいち 辺見 伸一
7	横浜市立大学 大学院 都市社会文化研究科 教授	みわ のりえ 三輪 律江
8	神奈川県弁護士会	やお きとし 矢尾 覚史
9	横浜市民生委員児童委員協議会 理事	やなだ りえこ 梁田 理恵子
10	横浜市立高等学校長会(横浜総合高等学校 校長)	よこた たかゆき 横田 孝行

## 横浜市子ども・子育て会議 青少年部会 事務局名簿

所 属 ・ 役 職	氏 名
青少年部長	たぐち かなえ 田 口 香 苗
青少年育成課長	もりわき みやこ 森 脇 美 也 子
青少年相談センター所長	おぐり ゆみ 小 栗 由 美
青少年育成課担当係長	さいとう たけし 斉 藤 健
青少年育成課担当係長	こまつ ナツメ 小 松 ナツメ
青少年育成課担当係長	いしまる まさや 石 丸 雅 也
青少年相談センター副所長	おおつ きえこ 大 津 章 絵 子
青少年相談センター相談支援担当係長	はぎわら としかず 萩 原 敏 一
企画調整課長	かきぬま ちひろ 柿 沼 千 尋
企画調整課担当係長	いくの もと やす 生 野 元 康

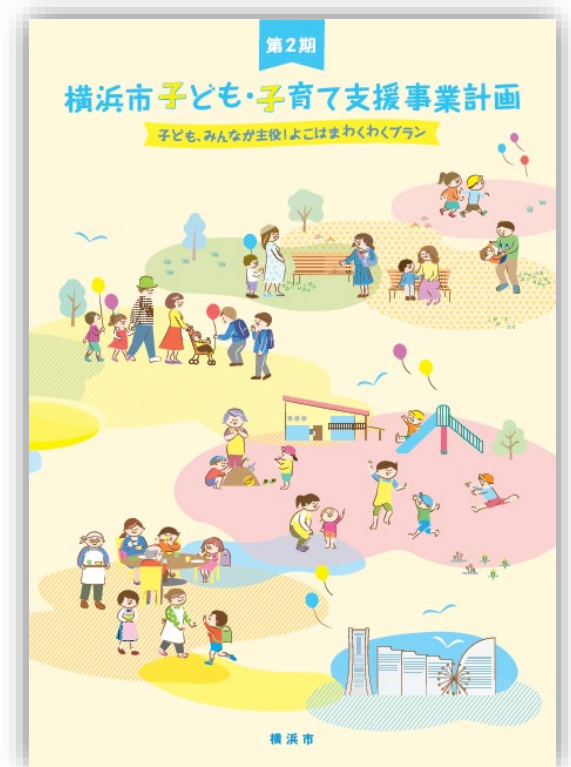
# 令和4年度 第2期横浜市子ども・子育て支援事業計画の 点検・評価について

## 1 子ども・子育て会議における点検・評価の実施について

第2期横浜市子ども・子育て支援事業計画（計画期間：令和2～6年度）を着実に推進していくため、子ども・子育て会議において、各施策・主要事業等の実施状況について、毎年度、点検・評価を行います。

## 2 点検・評価の実施方法

点検・評価にあたっては、実績数値の評価に加えて、数値だけでは把握できない部分について、施策を推進する過程の評価や必要に応じて市民ニーズの把握等を行うこととし、次の視点から点検・評価を行います。



### 3 点検・評価の方法

#### (1) 進捗状況及び有効性に関する段階評価

○**進捗状況**：各施策における指標、主な事業・取組について、目標値・想定事業量に対する進捗状況を4段階で評価します。

※コロナ禍による事業の中止・縮小などの状況等を踏まえて総合的に評価

A：計画以上に進んでいる	B：計画どおりに進んでいる
C：計画より若干遅れている	D：計画より大幅に遅れている

○**有効性**：各施策の主な事業・取組について、利用者、実施事業者からの意見・評価を踏まえ、当該事業・取組が市民生活等の向上にどの程度貢献したかを4段階で評価します。

※有効性の評価にあたり、利用者や実施事業者へアンケートやヒアリング等を行っています。

A：市民生活等を向上させることができ、利用者、実施事業者からの評価も高い
B：市民生活等を向上させることができた
C：市民生活等を向上させることができたとは言えない
D：市民生活等を向上させることができず、利用者、実施事業者からの評価も低い

#### (2) 今後の展開の評価

施策ごとに計画推進に向けた課題や、新たな行政課題への対応を検討し、これらを踏まえ、主な事業・取組の今後の展開（推進、見直し、休止・廃止）を評価します。

## 4 点検・評価の進め方

各部会において、所掌する各施策・主な事業等に関する点検・評価を行います。  
また、総会においてとりまとめを行った後、本市ホームページ等で結果を公表します。

部会	所掌する基本施策
子育て部会	基本施策 1 及び 4 の一部、基本施策 5 ～ 9
保育・教育部会	基本施策 1 及び 4 の一部
放課後部会	基本施策 2 の一部
青少年部会	基本施策 2 の一部及び 3

## 【参考】各部会で所掌する各施策・主な事業等

第4章 施策体系と事業・取組		子育て部会	保育・教育部会	放課後部会	青少年部会
基本施策1	乳幼児期の保育・教育の充実と学齢期までの切れ目のない支援	○※1	○※2		
基本施策2	学齢期から青年期までの子ども・青少年の育成施策の推進			○※3	○※4
基本施策3	若者の自立支援施策の充実				○
基本施策4	障害児への支援の充実	○※5	○※6		
基本施策5	生まれる前から乳幼児期までの一貫した支援の充実	○			
基本施策6	地域における子育て支援の充実	○			
基本施策7	ひとり親家庭の自立支援／配偶者等からの暴力（DV）への対応と未然防止	○			
基本施策8	児童虐待防止対策と社会的養護体制の充実	○			
基本施策9	ワーク・ライフ・バランスと子ども・青少年を大切にする地域づくりの推進	○			

※1 病児保育

※3 放課後施策、プレイパーク

※5 障害児施策全般

※2 保育・教育全般

※4 放課後施策、プレイパーク除く

※6 障害児保育・教育

【基本施策2】学齢期から青年期までの子ども・青少年の育成施策の推進

<これまでの主な取組>

3	<p>青少年の健全育成のため、感染症予防対策を講じた上で、青少年関係施設の運営や事業を実施し、コロナ禍においても青少年の交流や体験活動の機会を提供しましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止策に伴う利用制限や、設備等改修に伴う休館・一部休業があったことから、目標を下回りました。</p>
---	--

<指標の進捗（取組による成果）>

No.	指標	計画策定時 (H30年度)	R6年度	R4年度実績 (R5年3月末時点)	R4年度 進捗状況	所管課
2	青少年関連施設・事業利用者及び体験活動等の延べ参加者数	676,360人/年	692,323人/年	500,142人/年	C	青少年育成課

<今後の取組の方向性>

3	<p>引き続き、青少年の居場所や多様な体験機会の提供により、子ども・青少年の社会性や協調性、主体性等を育み、社会参画に向かう力を養います。また、プログラムの充実を図るとともに、広報等に力を入れることで、体験活動の参加者数の増に繋がります。</p> <p>青少年の地域活動拠点づくり事業の効果的な実施については、青少年部会でのご意見及び青少年や保護者の意見聴取等を踏まえ、検討していきます。</p> <p>高校生世代の居場所や相談先を見つける横浜市情報サイト「ふぁんみっけ」のさらなる周知を図るため、SNS等を活用した広報を行います。</p>
---	--



【基本施策3】若者の自立支援施策の充実

<これまでの主な取組>

1	<p>若者自立支援機関等（青少年相談センター、地域ユースプラザ、若者サポートステーション及びよこはま型若者自立塾）における若者の自立に向けた相談支援や居場所の提供、社会体験・就労体験プログラムなどを通じて、本人の状態に応じた支援に取り組みました。</p> <p>また、コロナ禍においても、困難を抱える若者や家族への支援が途切れることがないようにメール相談やオンラインを活用した居場所の提供などを行いました。</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大の影響で利用を控えていた方がつながり始めたことにより新規利用者が増加しました。一方で、困難度の高い利用者も増加し、支援が長期化する傾向にあります。その中には、連絡に応じなくなり利用を中断してしまうなど、支援機関から離れてしまう人が増えているため、改善がみられた人数が目標には届きませんでした。</p>
2	<p>生活困窮状態にあるなど、養育環境に課題があり、支援を必要とする家庭に育つ小・中学生等を対象とした寄り添い型生活支援事業を、18区21か所（うち令和4年度拡充か所数：1か所）で実施しました。</p> <p>令和3年度末から令和4年度初めにかけて受託事業者が変わる区が複数区あり、まずは、信頼関係を築くところから始まったため、居場所としての定期的な利用や基本的な生活習慣の定着まで至らない児童が出てきてしまったことにより、改善がみられた人数が目標には届きませんでした。</p> <p>また、高校進学に向けた寄り添い型学習支援事業の実施など、将来の自立に向けた基盤づくりを進めるほか、社会生活に関する様々な情報提供及び講座開催等の支援を行う「高校生世代支援事業」を全区で実施しました。</p>

<指標の進捗（取組による成果）>

No.	指標	計画策定時 (H30年度)	R6年度	R4年度実績 (R5年3月末時点)	R4年度 進捗状況	所管課
1	若者自立支援機関における自立に向けて改善がみられた人数	1,038人/年	1,800人/年	1,703人/年	C	青少年育成課
2	寄り添い型生活支援事業の利用により生活習慣に改善がみられた子どもの人数	160人(累計)	1,547人(累計)	901人(累計)	C	青少年育成課

<今後の取組の方向性>

1	<p>困難を抱える若者への支援として、引き続き、若者自立支援機関等における本人の状態に応じた支援を行います。</p> <p>音信不通状態になる（支援が届かなくなってしまう）前に、適切な支援機関などに引継ぎを行うことができるよう、より早い段階での見立てや各関係機関との連携を強化していくことで、支援機関から離れてしまう人を減らすことを目指します。</p> <p>あわせて、地域の企業・団体等と連携し、社会体験・就労体験先を増やします。体験先等の開拓により、若者の体験の幅が広がり、社会参加に向けて意欲の向上を図るとともに、企業・団体等が困難を抱える若者への理解を深めることで継続して参加しやすい環境を整えます。</p>
2	<p>来所や電話でつながりにくい若者からの相談を受け付けるため、ひきこもり等困難を抱える若者に対するSNS相談事業を、新たに実施します。</p>
3	<p>寄り添い型生活支援事業については、支援を必要とする家庭に育つ、より多くの小・中学生等が生活習慣の習得ができるよう、実施箇所数を増やすなど事業を拡充します。</p> <p>また、事業者に向けた支援スキルの向上や支援内容の標準化を目的とした研修を実施することで支援の効果を上げるとともに、送迎や体験活動を充実させることで利用の継続率を上げていく取組を実施します。</p>

横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価案

【基本施策2】学齢期から青年期までの子ども・青少年の育成施策の推進

<主な事業・取組>

No.	施策	確保 方策	事業・取組名	想定事業量	計画策定時 (平成30年度)	R6年度	R4年度 ※確保方策に☆	R4年度実績 (R5年3月末時点)	R4年度 進捗状況	R4年度の取組	R4年度予算額 (千円)	有効性	利用者・実施事業者の意見・評価	今後の展開	所管課
2	2		青少年の地域活動拠点づくり事業	地域活動拠点の設置数	6か所(累計)	12か所(累計)	-	7か所(累計)	C	7箇所での拠点運営を実施した。各拠点では、中高校生世代の青少年を対象に、自由に活動したり、交流できる場を提供するとともに、地域と連携したボランティア活動などの社会参加プログラムを実施することで、青少年が主体的な社会の一員として成長できるよう支援した。 新規拠点の整備については、社会情勢や国の動向等を踏まえ今後の方向性の検討を開始した。	133,767千円	A	事業者は「地域のイベント等において、青少年が参加できる機会を積極的に作り、青少年が仲間や異世代と交流する機会を提供できた。」課題の見える利用者については、必要な機関に繋ぎ、連携して支援を行いつつ、その利用者の得意なこと、好きなことを見つけ、それを応援することで自己肯定感を育めた。」と評価している。 利用する青少年からは「様々な個性のある子どもたちが有意義にすごすことができる環境」、「自分の足りないところを活動を通してレベルアップできた」などの声があった。	推進	青少年育成課
3	2		子ども・青少年の体験の推進	自然・科学体験等プログラム実施回数	4,081回/年	4,250回/年	-	3,213回/年	C	野島青少年研修センター、野外活動センター3か所、こども科学館において、自然・科学体験等プログラムを実施し、多様な体験活動の機会を提供することで、青少年の健全育成を推進した。 令和4年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止策に伴う利用制限や設備等改修に伴う休館・一部休所の期間があったことから、目標の実施回数を下回ったが、新型コロナウイルスの感染対策を講じながら、多くのプログラムを実施し、前年度実績(2,153回)と比較して増加している。 今後は各施設において、利用者ニーズを踏まえた効果的な体験プログラムを積極的に提供していく。	377,390千円	A	利用者からは、「コロナ禍でも、柔軟な対応をしてもらえた」「親切・丁寧な説明で気持ちよく利用できる」など、高い満足度が得られており、青少年の体験活動機会を充実させることができている。 特に科学館では、「プラネタリウムの設備更新により、来館者数が目標値を超えることができた。」「新型コロナウイルスの影響や天候の影響により目標を下回ってしまったので、今後気象状況に左右されないプログラムを検討していきたい。」と事業者は評価している。	推進	青少年育成課
5	2		青少年育成に係る人材育成等の取組	研修会等参加人数	9,922人/年	33,173人(5か年)	-	17,828人(3か年) (R4年度6,881人)	B	(公財)よこはまユースや青少年育成センター等が実施する、市民や青少年指導者向けの研修・講座の実施により、青少年育成に係る普及啓発及び人材育成を推進した。 令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、横浜市青少年指導員研修会をはじめとする多くの研修等を中止したり、集合型の研修の参加者数を減らして開催したが、オンラインの研修を実施することにより、概ね目標の参加者数となった。	293,248千円	A	事業者は「オンライン研修の実施により、リアル開催では来場できない方の参加もでき、参加者の満足度が高かった。」「状況に応じて、引き続きオンラインを活用した事業の実施を検討していきたい。」と意見がありました。 参加者からは、「全ての大人に聞いてほしい内容だった。」「声掛けの仕方、言葉の選び方、視点の変え方がとても勉強になった。」など、研修内容に関する高い評価をいただいた。	推進	青少年育成課
6	2		青少年育成に係る広報・啓発の実施	-	(実施)	(推進)	-	サイトの運用及び 広報啓発	B	高校生世代の居場所や相談機関の紹介ポータルサイト「ふぁんみつけ」及びTwitterの運営をした。 その他Twitterやホームページ掲載により周知に努めた。 関係機関や中高生へミニチラシの配布や、FMよこはまでの紹介、Twitter広告などによる広報を行った。	1,000千円	A	利用している中高生からは、「知りたい情報がすぐに見つかる点良かった。」との意見もあったが、「横浜 悩み相談」で検索してもふぁんみつけがヒットしにくいこともあり、サイトの改善や、より多くの中高生に利用してもらうため更なる広報の充実が必要である。	推進	青少年育成課

横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価案

【基本施策3】若者の自立支援施策の充実

<主な事業・取組>

No.	施策	確保 方策	事業・取組名	想定事業量	計画策定時 (平成30年度)	R6年度	R4年度 ※確保方策に☆	R4年度実績 (R5年3月末時点)	R4年度 進捗状況	R4年度の取組	R4年度予算額 (千円)	有効性	利用者・実施事業者の意見・評価	今後の展開	所管課
1	3		青少年相談センター事業	実利用人数	819人/年	820人/年	-	1,064人/年	A	<p>青少年及びその保護者を対象に総合相談や社会参加に向けた継続支援を行った。特にひきこもりや不登校など困難を抱える若者に対しては、少人数での集団活動を実施したり、リサイクルショップでの接客等、社会参加体験の機会を作り、自立に向けて対人交流の場を広げていけるよう支援した。</p> <p>また、若者自立支援の中核機関として、子ども、若者に携わる地域関係機関・団体を対象に、若者相談支援スキルアップ研修や職員技術研修を行った。</p>	66,691千円	A	<p>利用者アンケートでは、利用満足度(満足・やや満足)が本人93%・家族97%と高く、自立に向けた支援が受けられているとの意見が多かった。コロナ禍でもプログラムを継続したことに対する満足度が高かった。</p> <p>また、青少年相談センターでは、感染対策をしっかり行いながら事業を継続しただけでなく、外出プログラムや社会参加体験事業などにも力を入れることができたことと評価している。今後も社会参加体験先を増やしていく等、支援メニューの充実に努めていく。</p>	推進	青少年相談センター
2	3		地域ユースプラザ事業	実利用人数	952人/年	1,210人/年	-	884人/年	C	<p>思春期・青年期の総合相談や居場所の運営等を実施した。新型コロナウイルス感染症対策のため、居場所の事前予約制や利用者数制限等を行った施設もあったため、地域ユースプラザ利用者は伸び悩んだが、電話相談、面接相談、講座参加の件数については前年度より増加している。なお、メール相談やオンラインを活用した居場所の実施、利用者へ通信を送付するなどの工夫で若者への支援を途切れることなく行った。</p> <p>令和3年度から試験的に行っていたご家族を対象とした事業については、4年度から全4施設で実施し、ユースプラザを利用しやすくするための取組などを進めた。</p>	136,316千円	A	<p>利用者アンケートでは、利用満足度(満足・やや満足)が本人97%と高く、自立に向けた支援が受けられているとの意見が多かった。しかし、事業の周知度が不十分であるため、引き続き、広報・PRに努めていく。</p>	推進	青少年相談センター
3	3		若者サポートステーション事業	実利用人数	1,639人/年	1,740人/年	-	1,299人/年	C	<p>困難を抱える15歳から49歳の者及びその保護者を対象に、就労に向けた総合相談や就労セミナー、就労訓練等を実施し、職業的自立に向けて支援した。また、若者サポートステーションの支援を受けて就職した若者に、就労後の職場定着のためのフォロー等を実施するほか、より安定した就労形態にステップアップできるよう支援した。</p> <p>若者サポートステーションは、就職活動の進め方や仕事の選び方がわからないなど、ハローワークを利用する前段階としての支援を必要とする若者を中心に利用されており、実際にハローワークからのリファーマも多くなっている。なお、令和3年度まで、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、電話やオンラインを活用した相談やプログラムを実施したが、令和4年度はより細やかな支援のため来所相談を基本とし、本人の希望に合わせてオンライン相談を活用している。</p>	47,685千円	A	<p>利用者アンケートでは、利用満足度(大いに満足・満足・まあ満足)が9割以上と高い。</p> <p>利用者は、相談支援の利用によって、自身を客観的に見つめ直し、就労訓練の利用によって様々な仕事にチャレンジし、周囲とのコミュニケーションを積極的に取れるようになるなど、自立に向けて踏み出すことができています。</p> <p>また、事業者からは、支援者を対象とした説明会を対面形式に戻したことで参加者が増加し、既に支援機関につながっている対象者を新たにサポートステーションへつなげることができた一方で、未だに支援機関につながったことがない若者への広報をさらに強化していく必要があるという課題も挙げられた。</p>	推進	青少年育成課
4	3		生活困窮状態の若者に対する相談支援事業	実利用人数	444人/年	560人/年	-	621人/年	A	<p>若者サポートステーション等の支援につながった若者のうち、生活困窮状態及びそれ以外の複合的な課題を抱える若者に対し、自立に向けた相談をはじめ、関係機関への同行支援やつなぎなど総合的な支援を行った(よこはま若者サポートステーション、湘南・横浜若者サポートステーションへの委託により実施)。</p> <p>また、自らSOSを発することができない若者に対する早期支援として高校等へ出張相談等を行い、積極的な働きかけによる早期解決のため支援を行った。</p> <p>特に就労経験が一度も無いなど、支援の必要性の高い相談者からのニーズが高いパソコン講座を通年開催にしたところ、ハローワークからのリファーマ等が増加し利用者増につながった。</p> <p>引き続き、生活困窮者自立相談支援事業は、区福祉保健センターだけでなく、若者サポートステーションでも実施していることの周知を行い、困難を抱える若者の利用につなげていきたい。</p>	73,442千円	A	<p>利用者アンケートでは、利用満足度(大いに満足・満足・まあ満足)が9割以上と高い。</p> <p>利用者は、相談支援によって、本人の現状や内面を整理し、できることから行動に移すことで、抱えている複合的な課題を、個人差はあるが、一つずつ着実に解決している。</p> <p>事業者からは、若者サポートステーション事業と連携し、一体的相談窓口を設けることで、様々な困難を抱え、支援を必要としている若者に対して、速やかに適切な支援を届けることができていたとの評価があった。</p> <p>一方で、複合的な課題や深刻な課題を抱えている利用者ほど、相談すること自体への抵抗感が強く、相談へのハードルを下げられるような広報・啓発をより進めていく必要があるという課題が挙げられた。</p>	推進	青少年育成課
5	3		よこはま型若者自立塾	実利用人数	65人/年	130人/年	-	95人/年	C	<p>長期にわたってひきこもり状態にある若者について、低下した体力を回復するための体力づくりを行うとともに、共同生活を通じて、生活リズムの改善や他人との関わり方を習得するなど、それぞれの若者の状態に応じた支援プログラムを実施した(実施プログラム:短期合宿型訓練「ジョブキャンプ」、長期合宿型訓練、特別プログラム「うんめえもん市」、生活困窮者向け就労準備支援事業等)。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、県外移動を伴う短期合宿訓練の回数を縮減し、市内で行う通所型訓練を実施することで、参加へのハードルが下がり、利用者が増えてきている。</p>	37,242千円	B	<p>参加者からは、「事業に参加したことで、チャレンジすることの大切さが分かった。今後はそれを忘れずにより精進していきたい」、「働く楽しさや人の温かさに触れることができた」、「次のステップにつなげていきたい」など、前向きな感想が聞かれた。</p> <p>事業者は、「利用者が当事業を通して、生活スキルや社会スキルを身に付けることができています」と評価している。</p>	推進	青少年育成課

No.	施策 確保 方策	事業・取組名	想定事業量	計画策定時 (平成30年度)	R6年度	R4年度 ※確保方策に☆	R4年度実績 (R5年3月末時点)	R4年度 進捗状況	R4年度の取組	R4年度予算額 (千円)	有効性	利用者・実施事業者の意見・評価	今後の展開	所管課
6	3	寄り添い型生活支援事業	実施か所数	12か所	23か所	-	21か所	A	保護者の疾病や生活困窮状態にある家庭など、養育環境に課題があり支援を必要とする家庭に育つ小・中学生等を対象に、18区21か所で寄り添い型生活支援事業を実施し、手洗い・うがいや歯磨き、食事の準備・後片付け等の基本的な生活習慣や、学校の勉強の復習・宿題等の学習習慣を身に付けるための支援を行った。(令和4年度拡充か所数:1か所)。さらに、送迎の強化により車両送迎等が始まったことで遠方に居住することで利用できなかった児童が利用できるようになったなどの効果が表れている。 また、家庭的な雰囲気の中で保護者以外の大人と過ごすことで、それまで落ち着きのなかった子どもがスタッフの話聞けるようになる、スタッフに悩みを相談できるようになる等の変化が見られた。 コロナ禍においても、感染拡大防止策を取りながら開所し、子どもへの支援を継続した。	314,331千円	A	事業者アンケートにおいて、利用者のうち約9割の児童に改善が見られている。 また、寄り添い型生活支援事業実施事業者からは、利用している子どもたちについて、手洗い・うがいや食卓の準備・後片付けなどの基本的な生活習慣が身についた、他の利用者やスタッフに対して挨拶ができるようになったなどの効果が見られているという声が聞かれた。 子どもたちからは、「今まで家であまりやらなかった料理をできるようにになった」、「自分はもっと頑張って、将来はきちんと仕事をしたい」、「ここ(生活支援事業)にずっと参加したい」など、様々な声が聞かれている。	推進	青少年育成課
7	3	寄り添い型学習支援事業	-	受入枠:950人	(推進)	-	受入枠:1,200人	B	寄り添い型学習支援事業では、学習活動等の支援を行い、生活改善や高校進学を促進するほか、進学後のフォローを行うことにより、安定した自立を実現し、貧困の連鎖を断ち切る取り組みを進めた。また、高校中退防止の取り組みとして、中学生教室を利用した高校生を中心に居場所や学び直しの場の提供、面談を通じた通学状況の確認等の取り組みを行った。 また、高校中退者等も含む概ね15歳から18歳の高校生世代に対し、将来の選択肢の幅を広げる目的で、社会生活に関する様々な情報提供及び講座開催等の支援を行う「高校生世代支援事業」を全区で実施した。	257,609千円	A	寄り添い型学習支援事業実施事業者からは、「前向きに変化していく子どもたちの姿が見られ、やりがいを感じている」等の声が聞かれた。 子どもたちからは、「将来の夢が細かく決まってきた」、「家では言えない悩みも言えるようになった」、「家でも勉強できるようになった」等の声が聞かれた。また、高校進学の意識が高まり、目標に向かって勉強に取り組む中学生が多く見られた。	推進	健康福祉局生活支援課
8	3	青少年の地域活動拠点づくり事業(基本施策2の再掲)	地域活動拠点の設置数	6か所(累計)	12か所(累計)	-	7か所(累計)	C	7箇所での拠点運営を実施した。各拠点では、中高生世代の青少年を対象に、自由に活動したり、交流できる場を提供するとともに、地域と連携したボランティア活動などの社会参加プログラムを実施することで、青少年が主体的な社会の一員として成長できるよう支援した。 新規拠点の整備については、社会情勢や国の動向等を踏まえ今後の方向性の検討を始めた。	133,767千円	A	事業者は「地域のイベント等において、青少年が参加できる機会を積極的に作り、青少年が仲間や異世代と交流する機会を提供できた。」課題の見えた利用者については、必要な機関に繋ぎ、連携して支援を行いつつ、その利用者の得意なこと、好きなことをみつけ、それを応援することで自己肯定感を育めた。」と評価している。 利用する青少年からは「様々な個性のある子どもたちが有意義にすごすことができる環境」、「自分の足りないところを活動を通してレベルアップできた」などの声があった。	推進	青少年育成課
9	3	身近な地域に向いた相談等の実施	実施回数	485回/年	600回/年	-	622回/年	A	区役所等の身近な地域に向いた相談を実施したほか、ひきこもり等の若者の置かれている現状等について理解を深めるセミナー・相談会を全区で開催した。また、学校SSWや教育事務所等との連携促進を図ったほか、関係機関のケース会議等に出席し助言を行う等、支援機関のバックアップ等に努めた。	-	A	区役所における専門相談について、利用者からは、「身近な区役所で相談できるので利用した」との声があった。地域ユースプラザ相談員等からは、「専門相談のために区役所に出張していることをきっかけに、区福祉保健センターをはじめとした支援機関と連携が一層行えるようになった」と評価している。 18区で実施した「ひきこもり等困難を抱える若者支援セミナー・相談会」では、ひきこもりから回復した方の経験談を実施し好評を得た。利用者アンケートでは、「満足」「やや満足」と回答した方が90.8%と高かった。	推進	青少年相談センター
10	3	若者自立支援に係る人材育成、関係機関支援及びネットワーク構築	実施回数	121回/年	180回/年	-	439回/年	A	青少年相談センターでは、若者自立支援に携わる職員や関係機関向けの支援技術の向上を図るため若者相談支援スキルアップ研修を実施したほか、区役所等が主催する困難を抱える若者支援をテーマとした研修会等において、青少年相談センター職員の講師派遣を行った。 地域ユースプラザでは、オンラインを併用した地域支援連絡会を実施する等、地域の関係機関や区役所との連携及びネットワーク作りを進めた。	-	A	支援者向けのスキルアップ研修では、昨年度に引き続き動画配信による研修を実施したところ、平日では参加不可能な方など申込が多数に及んだ。今後も参加しやすい実施方法やアンケートを踏まえたメニューの実施など、満足度を高められるよう努めていく。 地域ユースプラザが主催する地域若者支援連絡会の参加者からは、「参加した支援機関と意見交換ができて有意義だった。」との声をいただいた。	推進	青少年相談センター

## 「青少年の地域活動拠点づくり事業」の効果的実施に向けた検討について

「青少年の地域活動拠点づくり事業」の効果的実施に向けた検討については、第1回・青少年部会（6/29）において、検討の趣旨や背景及び事業の概要等を御説明しました。

子ども・青少年・保護者のニーズへの合致等、本市としての検討の視点を踏まえ、各拠点の現状分析や青少年等のニーズを確認しましたので、第2回の本日は、その結果を御説明し、御意見をいただきます。

## 1 青少年の地域活動拠点の主な取組の現状・成果・課題（拠点活動状況シート抜粋）【参照：資料4-1】

「青少年の地域活動拠点づくり事業実施要綱」で事業内容として定めている5項目に基づき、各拠点の現状・成果・課題を整理しました。※課題の（ ）内の数字は、8拠点のうち該当する拠点数

- ①気軽に集い自由に活動する場の運営、②仲間や多世代と交流する機会の提供、  
③地域資源を活用した社会参加プログラムの実施、④青少年育成に取り組む地域団体・機関及び支援者との情報交流やネットワークづくり及び人材育成、⑤学習支援等

## (1) 気軽に集い自由に活動する場の運営【居場所機能、設置場所】

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>家でも学校でもない「第3の場（サードプレイス）」の提供</li> <li>主に中・高校生世代が気軽に立ち寄れる居場所・それぞれの過ごし方ができるフリースペースの運営</li> <li>スタッフが常駐することで、一人でも安心して過ごせ、相談や雑談など気軽にできる環境を整備</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>拠点に継続して通い続けることで、大学生が中高生をサポートする等、世代を超えた交流が行われ、お互いを刺激し合う好循環が生まれている。</li> <li>他団体や地域と連携が進み、青少年の育ちを共に見守ることができている。</li> <li>近隣地域だけでなく、目的に応じて交通機関を使つての区外からの利用もあり、また、不登校生徒の居場所にもなっている。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>拠点の認知と活動と呼びかける周知活動が十分に行えていない。広報活動を強化する必要がある。(4)</li> <li>利用者数の少ない拠点は、原因の整理と解決に向けた取組が必要。(2)</li> </ul>

## (2) 仲間や多世代と交流する機会の提供【多様な出会い・交流活動】

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域のイベント等において、青少年が参加できる機会を積極的に作り、様々な場面で活躍する場の提供</li> <li>地域の課題をとともに解決することにより、近隣の住民との交流を促している。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>プログラムに参加することで、長所を伸ばし自己肯定感が育まれている。</li> <li>青少年同士や多世代が交流することで、自分とは異なる環境にある同世代や異世代を知り、多様性を実感できる場となっている。</li> </ul>
課題	多岐にわたる業務内容に見合ったスタッフのスキルの必要性、体制の充実(2)

## (3) 地域資源を活用した社会参加プログラムの実施【体験活動、交流活動】

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の社会資源を活用したボランティア活動で、地域と交流を深めつつ青少年の社会参画に繋げる</li> <li>地域のイベントにおけるボランティアや作品展の実施により、多世代との交流の機会を創出</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトを通して青少年が力を発揮し、地域で活動ができる場の提供ができている。</li> <li>地域活動において中高生世代に役割が与えられ、参画できている。</li> <li>地域とつながりを持つことで、自分の住むまちへの愛着が深まり、まちの担い手としての自覚が芽生えている。</li> <li>社会変化の中でも変わることのない、知識と経験に裏打ちされた地域ネットワークの構築を果たした。</li> </ul>
課題	区との連携した取組の充実(3)

## (4) 青少年育成に取り組む地域団体・機関及び支援者との情報交流やネットワークづくり及び人材育成

【スタッフの役割、地域資源との連携】

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常的に区内外の団体・企業・学校とつながり、情報交流、連携体制を広げている。</li> <li>区内の子育て支援団体連絡会等に所属し、施設や団体と情報交換及びネットワークづくりを進めている。</li> <li>校長会や民児協の定例会に出席し、事業の周知や報告を積極的に行っている。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>幅広い機能を持ち、地域地盤を作り、青少年育成に向けた地域ネットワークの構築が出来ている。</li> <li>区内の居場所団体同士の交流やスキルアップの機会が作れている。</li> </ul>
課題	地域連携を図るため、拠点スタッフにコーディネーター的な存在が必要(1)

## (5) 学習支援等【居場所機能、学習支援】

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>落ち着いた環境や友達とおしゃべりしながら過ごせる学習スペースの提供</li> <li>中高大学生に対する、進学・就職のための進路相談、学習に関するアドバイスを実施</li> <li>大学生や元高校校長等による学習支援</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>中高生世代が困っている要素の1つである学習について、支援の場を作ることができ、近隣の大学生の活動の場ともなった。</li> <li>通信制高校生の学び直しや、進路相談にも対応することができた。</li> </ul>

## (6) その他（相談支援、保護者セミナー等）【スタッフの役割、地域資源との連携】

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>思春期世代の子を持つ保護者や地域の支援者へ青少年の理解促進に向けたセミナー等の実施</li> <li>課題のある利用者の必要な機関への繋ぎ、連携した支援の実施</li> <li>課題のある青少年への対応に苦慮している</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題のある利用者については、必要な機関に繋ぎ、連携した支援を実施している。</li> <li>日常的な相談への傾聴・助言、個別の相談対応や体験活動を通して自ら学び育つ場づくりができた。</li> </ul>
課題	課題のある青少年に対応できる拠点づくりの必要性(1)

## 2 青少年・保護者が青少年の地域活動拠点に求めること 【参照：資料4-2】

拠点に通う青少年と小学生から大学生を持つ保護者を対象にヒアリング等を行い、拠点に求めること等について次のとおりまとめました。

## (1) 青少年が通いやすく、通いたくなる環境の整備【開催日時、設置場所、内装】

青少年が安心して自由に活動できる環境や、気軽にいつでも好きな時に行ける常設の居場所

## ＜青少年の意見＞

- ・休日開所していれば、自宅と同じように友達とくつろげるからうれしい。
- ・内装や外観が明るく、おしゃれでインスタ映えするような場所だと人が集まる。
- ・ソファやこたつなどリラックスできる設備が欲しい。

## ＜保護者の意見＞

- ・学校以外の居場所が少なく、もっと気軽に、頻繁に行けるように開所日が多いとよい。
- ・様々な居場所に自分からアクセスしていける環境があるとよい。
- ・ほとんどの公共施設はワクワク感がない。行きたいと思わせるような場でないと、本当に来てほしい子は来ない。

(2) 居心地の良さ【居場所機能、スタッフの役割】

常駐のスタッフがいることやスタッフからの声かけによる安心感、居心地の良い自由な雰囲気を感じている利用者が多い。

<青少年の意見>

- ・スタッフに毎回声をかけてもらえ、第2の家のように居場所を作ってくれて、嬉しい。
- ・時間余ったときにいられる場所。自分に合っていたから、ずっと来たくなる。
- ・どんな人もこの環境にいていいと思えるところが拠点の強みで魅力

(3) 相談・傾聴【スタッフの役割】

スタッフや学生ボランティアと気軽に話ができ、悩みが相談できる。

<青少年の意見>

- ・ただ話を聞いてくれる人がいてほしい。あまり関係が出来てない人のほうが話しやすいし、いろいろな人と関わる機会があるのがうれしい。

<保護者の意見>

- ・何かあったときに頼れる大人がいる場所だと安心する。
- ・スタッフに発達障害についての知識と理解があるといい。

(4) 多様な出会いと地域との交流を通じた青少年の気付きや成長につながる体験活動

【体験活動、交流活動】

居場所での交流やプログラムの企画・運営等の体験活動の充実及び地域の町内会等との連携したイベントの企画や参加、地域の方々との交流

<青少年の意見>

- ・好奇心と一歩を踏み出す勇気が必要ということを知った。個性豊かな人と関わり、考える視野を広げられた。
- ・いろんなイベントを企画、運営し、多くの経験をすることができた。企画にあたって会話をすることで、相手に考えを伝えることができるようになった。
- ・一人っ子なので、イベントを通じて小さな子どもと関わる難しさを学んだ。
- ・コロナで町内会イベントもなくなっているの、拠点でイベントがあると地域の人と仲良くなる機会になる。

(5) 学習環境整備と学習支援【居場所機能、学習支援】

ゆっくり過ごせて安心できる落ち着いた環境で、学習スペースや、学生ボランティア等による学習支援

<青少年の意見>

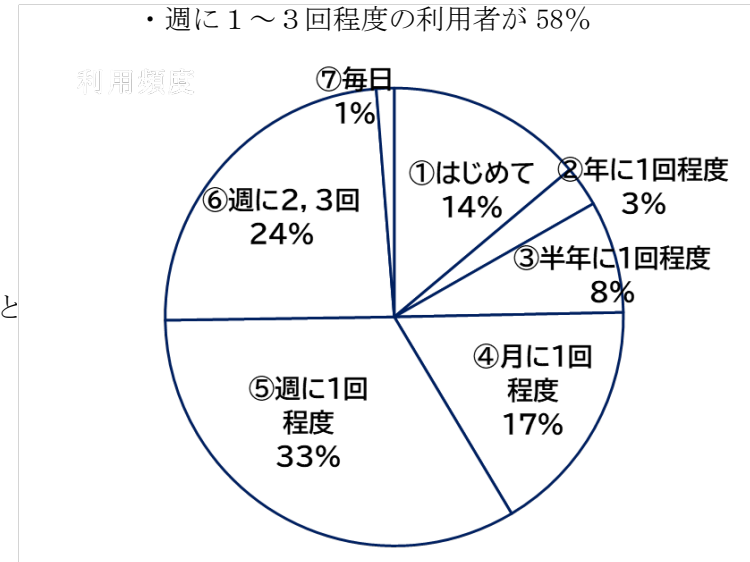
- ・大学生や小中高生がいるので、勉強会みたいなのがあっても面白いと思う。
- ・理科の実験や茶道・華道等の学習系の体験プログラムなどがあると楽しそう。

3 令和4年度アンケート集計結果

令和4年度 青少年の地域活動拠点利用者アンケート（実施期間：令和4年9月～令和5年3月）  
全567件のうち、有効回答のみ計上

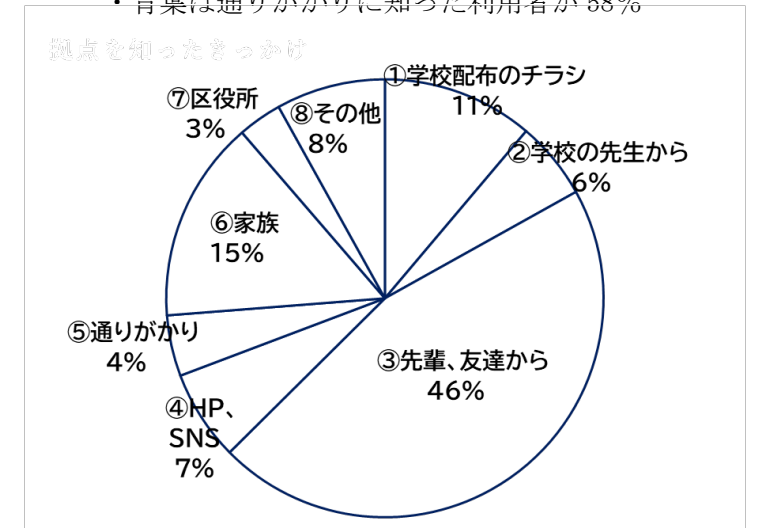
(1) 利用頻度

・週に1～3回程度の利用者が58%



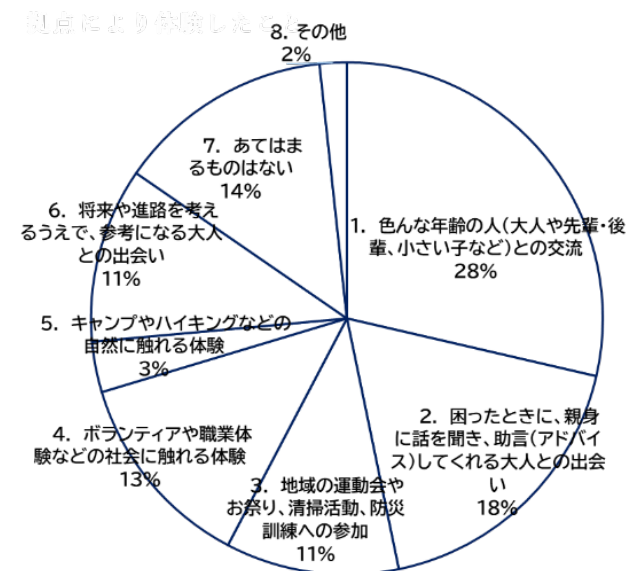
(2) 拠点を知ったきっかけ

- ・友人からの紹介が46%
- ・青葉は通りがかりに知った利用者が58%



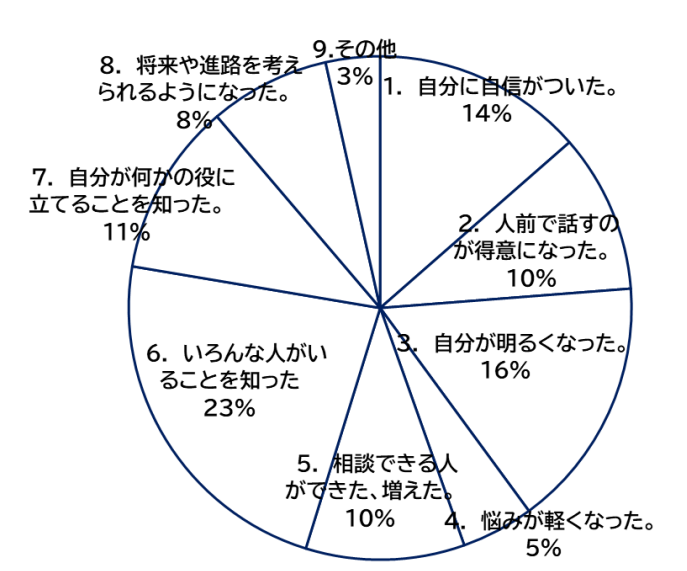
(3) 拠点により体験したこと

- ・多世代との交流、大人との出会いが57%
- ・地域の活動や社会体験が16%
- ・磯子では困った時に相談できる大人との出会いが40%



(4) 体験による自身の変化

- ・自信がついた、人前で話すのが得意になった24%
- ・悩みが軽くなり、相談できる人が出来た15%
- ・南では自分が明るくなった回答が23%



<別紙資料>

- 1 拠点活動状況シート 資料4-1
- 2 ヒアリング実施結果 資料4-2
- 3 青少年の地域活動拠点づくり事業実施要綱

# 拠点活動状況シート

資料 4 - 1

青葉区	「あおばコミュニティ・テラス Aoba Community Terrace」		運営団体	特定非営利活動法人 まちと学校のみらい	
住所	青葉区市ケ尾町 1153-2 ライオンズプラザ市ケ尾 201 青葉区市ケ尾町 1153-3 第2カブラキビル 301 (市が尾駅 徒歩2分)				
開設日	R2年11月	面積	95.77 m <sup>2</sup>		
(R5) 補助金額	8,329 千円 (うち家賃 1,980 千円)	スタッフ配置 人数/日	9人 (通常2名勤務体制) 1名7時間 1名5時間		
実施日時	月曜日・水曜日 15時～20時 土曜日 13時～18時 週3日開館 5時間×3日=15時間				
利用者数 (1日あたりの 利用者数)	H30	R1	R2	R3	R4
	—	—	252人 (5人)	1,229人 (7人)	1,242人 (7人)
施設特色	<p>(運営方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に根ざした施設運営を心掛け、青少年育成のみならず、さまざまな立場の人が交流し、新たなまちづくりの核となる「場」としてコーディネート機能を持つ。</li> <li>・安心できる居場所 (サードプレイス) を保障する。</li> <li>・これからの社会を創る青少年に必要な経験や学びができるよう伴走する。まちづくりや地域ボランティア活動に参加するほか、青少年自ら問を立て、事業を企画運営する機会をする。主体的・協働的に活動するプロセスで地域への愛着を深め、市民性の醸成へとつなげる。</li> <li>・思春期の子どもたち、保護者等にとって、身近な相談支援機能を持ち、中高生の保護者向けのプログラム (えんがわ相談、思春期お茶の間会、保護者向け講座) を行う。</li> </ul> <p>(施設)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市ケ尾駅から徒歩2分でアクセスしやすい商店街の中にある。</li> <li>・ガラス張りの日当たりが良い中二階に位置し、安全で開放的な空間である。</li> <li>・フリーWi-Fiが利用できる。</li> </ul> <p>(運営)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育・心理・地域づくり・福祉・団体運営に精通した専門家であるコーディネーターがチームとして運営していることが強みである。</li> <li>・日常的にITを駆使し、情報共有・発信している。</li> </ul>				

	<p>・コーディネーターの多彩な経験・知識・専門の資格をフルに活かし、全体ミーティング（月1回）、事業担当リモート会議（月1回）、チーフコーディネーター会議（随時）を重ね運営している。</p>
<p>R4 活動内容 （青少年の地域活動拠点づくり事業実施要綱に対比）</p>	<p>(1) 中・高校生世代を中心とした青少年が気軽に集い、自由に活動する場の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校とも家庭とも違う、安心できる居場所（サードプレイス）を提供している。</li> <li>・子どもたちの様子としては、ひとりでも友人同士でも気楽に立ち寄り自由に過ごせる環境づくりにつとめている。自習・おしゃべり・読書・ゲーム等するなかで、時には地域の人との会話もうまれている。</li> <li>・不登校や引きもりがちな青少年が趣味のサークル活動をする場として定期的に利用している。</li> <li>・区内中学校・高校にチラシやカードを配布、必要に応じて学校や校長会に出向き説明している。</li> <li>・コーディネーター会議・研修において、多様な背景をもった不特定多数の子どもたちが自由に利用し、自らの居場所として利用できる場となるための方策について、検討を重ねている。</li> <li>・すでにあおばコミュニティ・テラスを利用している学生たちが、まだあおばコミュニティ・テラスに来たことない人へ向けて、プロジェクトや日頃の様子をニュースレター「あおてら」やインスタグラムで発信している。</li> <li>・高校生大学生が第3月曜夕方「勉強カフェ」を開設、ゆるやかな同世代の交流の場をつくる動きにつながっている。</li> </ul> <p>(2) 中・高校生世代を中心とした青少年が、仲間や多世代と交流する機会の提供</p> <p>○あおば未来プロジェクト（中高生のまちづくりプロジェクト）</p> <p>中高生が主体的にまちの魅力発信や、課題解決に向けて1年間を通して活動する。テーマごとにチームになり実際にまちに出て、リサーチし、意見交換を重ね、アクションにつなげる。それぞれのチームを大学生がサポートし、中高生の視点がいかされたまちづくりを言語化する。このプロセスで仲間や地域の人と出会い、対話が生まれ、協働的に活動する醍醐味を知ることができる。</p> <p>参加者：中高生23名 サポーター：大学生17名</p> <p>スケジュール：原則土曜日15時～17時 その他随時チームで活動</p> <p>5月21日 あおば未来プロジェクト説明会</p> <p>6月11日 オリエンテーション 青葉区の現状：課題を知る（青葉区区政推進課より）</p> <p>6月25日 課題解決の事例やプロジェクトの進め方について（ゲストスピーカー 菅野祐太 認定NPO法人カタリバ ディレクター・岩手県大槌町教育専門官）</p> <p>7月9日 一人ひとりの課題意識の発表 チーム作り 夏休みの計画</p> <p>8月 チームごとの活動 現状の分析（フィールドワーク・情報収集）</p> <p>9月3日 チームごとに夏休みの活動をまとめる調べたことをまとめプロジェクトの目的を明確にする</p> <p>10月8日 青葉区民祭りでのリサーチの準備</p> <p>11月3日 青葉区民祭りチームごとにリサーチやワークショップを実施</p> <p>11月12日 区民祭りの経験を踏まえたうえで、解決策の実現に向けて活動する。</p> <p>12月10日 リサーチ・フィールドワーク、企画などを進める。</p> <p>1月14日 プロジェクトのまとめの報告 政策提言に向けて活動を振り返る</p> <p>2月4日 活動のリフレクション 最終報告の準備</p> <p>3月11日 活動報告会 区長への政策の提案（青葉区役所にて）</p>



活動テーマ：ゴミ問題・多世代交流・共生社会・青葉区の魅力アップ・あおばコミュニティ・テラスの広報・青葉区魅力発信

R5 あおば未来プロジェクトではまちの安全（主に交通安全）・給食の食べ残しゼロ・多世代交流・同世代交流・近隣の人との交流をテーマに5つのプロジェクトが活動している。

○Youth Wave(中高生、大学生の自主企画)

中高生、大学生がいちから発案しイベントやワークショップを行う。また、あおば未来プロジェクトで立ち上げたプロジェクトをYouth Waveとして継続して行う。

・「あおばらくがきフェスタ」：毎年3月の春休み、泉公園でチョークアートを行う。公園を大きなキャンパスに見立て、ダイナミックに表現活動を行うとともに、地域のつながりをつくる。子どもたちとともに書いた絵をデッキブラシで消し原状回復するまでをイベントとしている。未就学児～小学生が対象（102名）中高生大学生（12名）

・「Uchi With」：温暖化に伴う環境問題を学ぶきっかけとして、「水鉄砲で打ち水をして涼しくなろう！」というコンセプトのもとに隣接する第3公園で行うイベントを企画実施している。未就学～小学生が対象（延べ150名）中高生大学生（11名）保護者（延べ120人）参加

・「まもるノート」：中高生、大学生のプロジェクトチームが作成した防災教材を用いて防災ワークショップを実施した。これまで神奈川県立あおば支援学校、市ヶ尾小学校キッズクラブ、谷本小学校夏休み防災キャンプで実施した。（延べ約100名）大学生（5名）

・「ウォーキングマップ動画作成」：下市ヶ尾町内会の依頼により参加した高校生・大学生がウォーキングコースの紹介動画を作成した。「みんなで歩こうジョイウォーキング」という地図に動画のQRコードが掲載され区内に配布された。高校生大学生が参加することにより、下市ヶ尾町内会のDX化が急速にすすんだ。

・「山下ふ頭の再開発に向けたワークショップ」：高校生が山下ふ頭の将来の利用方法についてワークショップを提案、企画、ファシリテートした。その結果は市会で報告され、さらに港湾局が市内4カ所でワークショップを実施する元となった。参加人数 23名

・「つながりが生まれるカード・つながりタイム」：R4 あおば未来プロジェクトで多世代交流を促進することをめざしたジェネレーションチームが、初めての人同士でも円滑にコミュニケーションでき、つながりが生まれるカードを作成し、商品化をめざしている。

(3) 中・高校生世代を中心とした青少年を対象とした、地域資源を活用した社会参加プログラムの実施

○あおばユーストライ

夏休み中に中高生の地域ボランティア活動を実施した。

青山学院大学コミュニティ人間科学部3年生の地域実習として受け入れ、オリエンテーション、体験先との打ち合わせ、募集チラシの作成、当日サポート、振り返りワークショップを実施することをサポートした。（大学生10名 延べ20時間）

R4 ボランティア体験先：子ども食堂・江田駅周辺商店会花壇の整備・もえぎ野地域ケアプラザ世代間交流・青葉ふれあい農園（延べ 中高生46人 大学生10人参加）

R5 ボランティア体験先：あおば子ども食堂・あおばおもちゃのひろば・青葉ふれあい農園・もえぎ野地域ケアプラザイベント・たまプラーザ駅前商店会清掃活動・下市ヶ尾町内会盆踊り・荏田西地区ふるさとまつり・Uchi with イベント（中高生9名、大学生7名参加）

青山学院大学コミュニティ人間科学部 地域実習スケジュール

5月11日 実習に向けたガイダンス

5月25日 青葉区役所・青葉区社会福祉協議会で情報収集

6月22日 ボランティア先へ出向き、打ち合わせ

7月23日 中高生対象 オリエンテーションの企画ファシリテーション

7月24日～8月26日 中高生の地域ボランティア活動に同行

8月27日 中高生 振り返りワークショップの企画ファシリテーション

10月12日 次年度の実習生に向けた地域実習の報告

	<p>(4) 青少年育成に取り組む地域団体・機関及び支援者との情報交流やネットワークづくり及び人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あおば子どもシステム青少年支援部会、つながりミーティング青少年支援部会、児童虐待防止連絡会、青葉区区民利用施設交流会等によるオフィシャルなネットワークだけでなく、日常的に区内外の団体・企業・学校とのつながりにより、情報交流、連携体制が広がっている。</li> <li>・特に課題を抱えた青少年・保護者の相談支援においては、学校、行政、専門機関との連携が必須であるとともに、専門性の高いコーディネーターがつかないでいる。</li> <li>・青少年育成にかかわる者として、常に学びつづける姿勢が求められ、年2回のスタッフ研修の他、各種セミナーに参加している。</li> <li>・コミュニティ・テラスに関わりのある地域の人、区内の企業人、ボランティア団体、中学生、高校生、大学生の交流の場「てらすねっと」を立ち上げ、年に4回行う新規事業を企画した。中学生、大学生が同世代だけでなく、地域で活動する人や社会人の方とも、会食をともにしながら談笑し、多様な価値観や人生観にふれる機会をつくる。</li> <li>・横浜コーディネーターキャンパスに参加し、若者と地域をつなぐ活動をする団体（アクションポートよこはま、よこはまユース、野毛坂グローバル 他）市域においてもネットワークを広げている。</li> <li>・法人代表が国立青少年振興機構の評価委員をつとめており、全国的な青少年育成における動向をキャッチしている。</li> </ul> <p>(5) 主に中・高校生を対象とした学習支援等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中高生・大学生にたいして、大学・大学院・就職のための進路相談、学習に関するアドバイスをを行っている。</li> <li>・NPOの多世代交流事業として小学生のための「みんなの学習室」を夏休み、冬休み、春休みに各2日開催している。そこでは中高生・大学生がアイスブレイク、学習サポートをし全体運営をチームでしている。この経験は単に小学生の勉強を見るのではなく、寄り添いながら交流を深め、学校では経験することがない貴重な学びの場になっている。</li> </ul>
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あおば未来プロジェクトやあおばユーストライを通じて、中高生がそれぞれの持ち味を力を発揮して、地域での活動ができる場を提供している。学校とは違い、評価から自由な場であり、多彩な人との出会いとリアルな体験を重ね、探究的協働的な活動を自分の言葉で語るができるよう、それぞれが成長している。</li> <li>・中高生の活動を大学生が支えることで、憧れの連鎖がおきている。中高生であおば未来プロジェクトやあおばユーストライに参加した人が、大学生になって中高生をサポートする立場になって活動を続けている。このような経験は進路にも影響し、大学で教職課程やまちづくりを専攻する学生も輩出している。</li> <li>・中高生が地域とつながりを持つことで、自分の住むまちへの理解が進み愛着が深まっている。町内会自治会の方々や地元企業の方と出会う機会も多く、視野が広がるだけでなく、まちの担い手としての自覚がめばえている。</li> <li>・誰もが安心、安全に過ごせる場として、赤ちゃんから高齢者まで、障害のある方や外国籍の方など多様な方の利用があり、多様性に触れるきっかけになっている。</li> </ul>

<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常的な居場所として利用する中高生・大学生はまだ少ない。徐々に自習や習い事の空き時間に利用する人が増えているが、今後も周知を工夫する必要がある。</li> <li>・ あおばコミュニティ・テラスは市内で唯一運営団体が場所探しからスタートし、補助金の中から家賃を払っているが、開館日時以外に多彩な事業を展開することにより運営を維持しているが、充実した青少年の地域活動拠点運営に注力するために、家賃の心配をすることなく力を尽くせる環境であればと考えている。</li> <li>・ 駐輪場が欲しいという要望に応えられていない。</li> </ul>
<p>区のコメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区や地域、拠点との連携状況 自治会の地図作りや、夏祭りにおける社会福祉協議会のブースの手伝いなど地域の課題解決に貢献している。 理事が区主催の「つながりミーティング青少年支援部会」の委員となっている他、自主企画事業の「多世代交流等による青少年育成事業」を受託し実施している。</li> <li>・ 区内に青少年地域活動拠点があることに対する所感 総合学習等でボランティア活動等が求められる中、受け皿の一つとして機能している。</li> <li>・ 課題や要望等 総合学習や地域での活動等に興味を持つ生徒には魅力的な場所だと思うが、ただ居場所を求める生徒にとっては活動内容やスキルテストの勸奨等により敷居が高くなっているのではないかと感じる。 他区と同拠点と異なる補助金の内容（開館日以外分の家賃は自己負担）に不公平さがある。</li> </ul>



磯子区	「イソカツ」		運営団体	特定非営利活動法人 コロンブスアカデミー	
住所	磯子区磯子3-4-23 浜田ビル2階（磯子駅 徒歩5分）				
開設日	H29年11月		面積	165.00 m <sup>2</sup>	
(R5) 補助金額	6,349千円		スタッフ配置人数/日	2人	
実施日時	火曜日、木曜日、土曜日 15時から20時まで（土曜日のみ13時から18時まで） 週3日 平日：5時間×2 土曜日 5時間 計 週15時間				
利用者数 (1日あたりの 利用者数)	H30 3,238人 (20人)	R1 3,054人 (19人)	R2 2,295人 (14人)	R3 3,614人 (23人)	R4 3,795人 (24人)
施設特色	<p>フリースペース、多世代交流イベント、社会参加プログラムを3本柱に運営を行っている。フリースペースには、個別の学習スペースや、卓球台や小上がりスペースも常設。学習や読書、運動等、ひとりでゆっくり過ごしたり、友達と過ごしたりできる場となっている。中高生世代によるイソカツ運営委員会では、毎月ミーティングを行い、地域の人が集まる場を盛り上げるための企画や、イソカツをよりよくする工夫等を話し合い、形にしている。</p> <p>年間の主なイベントとしては、磯子区民まつりの参加（出張イソカツとして中高生世代が中心となり縁日を出店）、中高生世代手作りの美術展を開催。近隣の中高生世代の作品が、毎年100点以上集まるイベントとなっている。</p>				
R4 活動内容 (青少年の地 域活動拠点づ くり事業実施 要綱に対比)	<p>(1) 中・高校生世代を中心とした青少年が気軽に集い、自由に活動する場の運営</p> <p>① <b>青少年が気軽に集い、自由に活動する場の運営</b> 主に中・高校生世代が気軽に立ち寄れる居場所・それぞれの過ごし方ができるフリースペースの運営を行った。</p> <p><b>*第3の場としての居場所</b> コロナ禍だからこそフリースペースが求められているところも大きく、訪れたメンバーが安心して過ごせる場づくりを意識して行った。イベント等は少しずつ再開してきたものの、上半期はまだ中止になるものも多かったため、発散できる場になるようにも努め、季節の行事や卒業のお祝いなども行った。それぞれゆっくりくつろいだり、学習したり、友達との会話や卓球を楽しみ、家でも学校でもない「第3の場」として機能していた。</p> <p><b>*区内の広域から来所</b> 近隣の磯子・屏風ヶ浦地区だけでなく、根岸地区、中区や南区からも自転車やバスや電車を使って来所している子もいた。</p>				

**\*イソカツ運営委員会**

イソカツに集う中・高校生世代のメンバーが中心となり、季節のイベントや縁日の企画や準備、イソカツ美術展の準備などをおこなった。

【参加者】中学生34名 高校生43名

(2) 中・高校生世代を中心とした青少年が、仲間や多世代と交流する機会の提供

**\*ものづくりワークショップ**

昨年度に続き、イソカツに来ているメンバーに講師を務めてもらい、UVレジンなどを教えてもらう形ができた。自分たちからも次回に取り入れたいことの提案などがあり、楽しんでいる様子だった。

【参加者】中学生63人、高校生39人、計102人

**\*イソカツスポーツデー**

卓球やストレッチ、ボッチャなどを実施。卓球は根強い人気があり、中高生世代が楽しんで参加。また、スポーツを通して学年や学校が違うメンバー同士の良い交流の場となった。

(参加者) 中学生52人、高校生49人 計101人

(3) 中・高校生世代を中心とした青少年を対象とした、地域資源を活用した社会参加プログラムの実施

**\*ボランティア体験**

感染予防に努めながら、人数も限定して、親と子のつどいの広場、学童クラブでのボランティア体験、磯子のまち美化パートナーとして、地域清掃を定期的実施。また、昨年度に続き、コロナ禍でもできる「離れてつながるボランティア」を実施。ケアプラザの配達のお弁当につける折り紙や他の施設の装飾づくりのボランティアや、杉田劇場のイベントのための装飾の作成なども引き続き行った。

子育て広場

学童保育、中学生9人、高校生20人

装飾ボランティア

中学生3人、高校生4人

折り紙ボランティア

中学生 4人、高校生5人

まち美化

パートナー、中学生 32人、高校生 23人

いそピヨ消毒ボランティア

高校生 2人

K2夏祭りボランティア

中学生 2人、高校生 2人

### **\*第5回イソカツ美術展**

中高生世代の中高生世代による美術展を開催。昨年度と同様に、根岸駅前のモンビルの会場にて開催し、毎年欠かさず見に来てくれる方や、作者、小学生親子の来場があった。今年度は昨年度上回る138点の作品が集まり、5日間に251人の来場があった。

共同制作では、講師を招いて版画のワークショップを開催。出来上がった作品はイソカツ美術展にて展示。美術展最終日には3回目の版画ワークショップを開催し、小学生親子が初めての版画に触れる良い機会となり、次年度につながる取り組みとなった。

(運営企画) 中学生5人、高校生6人  
(版画ワークショップ) 共同制作参加者  
小学生9人、中学生2人、高校生10人、大学生1人、大人5人  
(美術展来場者) 251名

### **\*農業体験**

岡村にある「にこまるソーシャルファーム(畑)」でのじゃがいもやさつまいもなどの収穫体験や地元の野菜を味わう体験ができた。外での活動は気持ち良く、また、多世代との交流ができ、貴重な体験の機会となった。

(参加者) 中学生8人、高校生7人

### **\*磯子まつり出店**

久しぶりに開催された磯子まつりに出店することができた。コロナ禍で学校の文化祭や体育祭を経験していない中高生世代メンバーが多く、準備から片付けまで協力しながら1つのことに取り組む楽しさを経験することができた。また、地域の大人や子ども達との良い交流の機会になった。

【運営企画】 中学生3名、高校生10名

### **\*いそごどもまつり2022**

久しぶりに開催されたいそごどもまつりに出店することができた。磯子まつり同様、コロナ禍で学校の文化祭や体育祭を経験していない中高生世代メンバーが多く参加し、準備から片付けまで協力しながら1つのことに取り組む楽しさを経験することができた。また、地域の大人や子ども達との良い交流の機会になった。

【運営企画】 中学生2名、高校生3名

(4) 青少年育成に取り組む地域団体・機関及び支援者との情報交流やネットワークづくり及び人材育成

### **\*地域の連絡会**

磯子区の施設館長連絡会、南部地域若者支援連絡会等に参加し、事業の周知や報告を積極的に行った。また、他の活動拠点や青少年に関わる活動をしている団体との交流を深め、具体的な連携につなげていくことができた。

	<p>(5) 主に中・高校生を対象とした学習支援等</p> <p>該当なし</p>
	<p>(6) その他、本市が必要と認める事業</p> <p><b>保護者へのアプローチ</b>  <b>*保護者セミナー開催</b>  R4年度は、「SNS世代の子ども達を理解しよう～向き合い方のヒント～」をテーマに保護者対象の思春期セミナーを開催し、思春期世代の子を持つ保護者や地域の支援者が34人参加。  講師の話は子ども達のことだけではなく、保護者自身がとても考えさせられるような内容で、アンケートの結果もとても好評で、次回を期待する声が多かった。</p> <p><b>【参加者】</b> 思春期の子を持つ保護者、地域の支援者 33名</p>
成果	<p>中高生世代が気軽に立ち寄り、それぞれの過ごし方が出来るフリースペースとして、中高生世代が集まる場となった。磯子区以外からの中高生の利用も定期的にあった。また、近隣の中学校の先生から、不登校生徒へ外に出る練習としてイソカツの紹介があり、利用するケースもあった。そのため、隣接するよこはま南部ユースプラザや学校との連携も積極的に行った。イベントなどを通して、地域との連携も積極的に行い、共に子ども達の育ちを見守ることができた。</p>
課題	<p>広報について</p> <p>磯子駅周辺やイベント等に参加した子ども達、関係機関等には知られているが、まだイソカツを知らない方も多いため、広報活動が課題となっている。</p>
区のコメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区（地域振興課）との連携事業としては、磯子まつりと青少年指導員協議会のこどもまつり（年1回開催）となっており、連携体制が十分とはいえない状況にある。</li> <li>・利用者数は増加しているが、新規利用者数が増えているかどうかは定かではなく、より一層の周知・広報活動が必要と言える。</li> <li>・同じ「青少年」を対象としている青少年指導員協議会との関わりが希薄であり、相互理解や連携によって、相乗効果を図っていく必要もある。</li> </ul>



金沢区	「カナカツ」		運営団体	特定非営利活動法人 コロンブスアカデミー	
住所	金沢区谷津町 359 (すずらん通り商店街内) (金沢文庫駅 徒歩 3分) ※令和 4 年 3 月に現住所に移転				
開設日	H24 年 4 月		面積	83.39 m <sup>2</sup>	
(R5) 補助金額	6,349 千円		スタッフ配置人数/日	2 人	
実施日時	火曜日、木曜日、土曜日 15 時から 20 時まで (土曜日のみ 13 時から 18 時まで) 週 3 日 平日：5 時間×2 土曜日 6 時間 計 週 16 時間 ※令和 4 年 3 月までは週 5 日で開所				
利用者数 (1 日あたりの 利用者数)	H30 4,681 人 (18 人)	R1 3,802 人 (14 人)	R2 2,475 人 (9 人)	R3 3,058 人 (11 人)	R4 2,662 人 (17 人)
施設特色	<p>フリースペース、多世代交流イベント、社会参加プログラムを 3 本柱に運営を行っている。1F 入口には駄菓子コーナーを設け、地域の子ども達が気軽に利用しやすい雰囲気を作っている。また、2F の利用は中高生世代限定とし、落ち着いて自主学習ができる空間とゆっくりくつろげる小上がりのスペースを設けている。中高生世代が積極的に小学生との遊んでくれたり等、日常のフリースペースの中でも、多世代交流が行われている。</p> <p>年間の大きなイベントとしては、金沢区民まつりへの参加 (出張カナカツとして中高生世代が運営の中心となり縁日を出店)、中高生世代手作りの美術展の開催等を行っている、美術展は、近隣の中高生世代の作品が毎年 100 点以上集まるイベントとなっている。</p>				
R4 活動内容 (青少年の地域活動拠点づくり事業実施要綱に対比)	<p>(1) 中・高校生世代を中心とした青少年が気軽に集い、自由に活動する場の運営</p> <p>地域の中学生・高校生世代が気軽に立ち寄れる場、それぞれの過ごし方ができるフリースペースを運営。R4 年度も、引き続き新型コロナウイルスの感染拡大等の影響があり、さまざまな制限もあったが、少しずつ緩和に向けた 1 年でもあった。感染対策をしながら実施するイベント等も増え、さまざまな工夫を行った。訪れるひとりひとりにとって、それぞれに意味合いは違うが、有益な居場所になっていたと感じる。</p> <p><b>*第 3 の場としての居場所</b></p> <p>ゆっくりくつろいだり、学習したり、友達との会話を楽しんだり、時には学校や家庭の悩みを話していくメンバーも多く、家でも学校でもない「第 3 の場 (サードプレイス)」として機能していた。</p> <p><b>*継続利用</b></p> <p>小学生の頃から来所していた子ども達が継続的に訪れたり、企画の発案や準備、装飾づくりを手伝う等活躍する場面が多く見られた。</p>				

(2) 中・高校生世代を中心とした青少年が、仲間や多世代と交流する機会の提供

\*季節のイベント

地域の団体や学校と共に秋まつり等のイベントの準備・開催を通して、地域交流や多世代交流の機会を設けた。移転により、金沢文庫すずらん通り商店街をはじめとする新たな連携先も出来た。

\*ものづくりワークショップ

中高生世代にも講師を務めてもらい、後輩や小学生へ教えてもらう形ができた。自分達からも、次回に取り入れたいものづくりの提案等があり、自ら提案・企画する力も育むことができた。

(参加者) 小学生 51 人、中学生 37 人、高校生 26 人、大学生 8 人

\*カナカツ卓球デー

移転により、スペースに制限ができた分、新しいアイデアを出しながら楽しむ姿が見られた。中高生世代が後輩や小学生に教える姿も見られた。

(参加者) 小学生 62 人、中学生 41 人、高校生 28 人、大学生 2 人

(3) 中・高校生世代を中心とした青少年を対象とした、地域資源を活用した社会参加プログラムの実施

\*ボランティア体験

毎月ボランティアデイを作り、連携団体（親と子のつどいの広場や高齢者施設等）へ青少年が手作りしたプレゼントを届ける企画を実施、外部との連携も継続して行った。また、連携先へ出かけてのボランティア体験も計画。新型コロナウイルス感染症の影響で、夏の体験は中止となったが、秋の体験（いきいきフェスタ・金沢スポーツセンター）は久しぶりに実施することができ、参加したメンバーにとっては貴重な体験となった。

(参加者) 中学生 3 名、大学生 2 名、大人 1 名

\*カナカツ美術展

主に区内の青少年の美術作品の展覧会を実施した。企画・準備・運営を高校生が中心となって進め、自分たちの鉄づくりの美術展を開催することができた。昨年度からはじまったオンラインによる運営会議も実施。また、新たな取り組みとして、テラコ学校の美術部と連携したオンラインによるワークショップも開催。障子紙のペーパークラフトによる共同制作を行った。

(参加者) 中学生 43 人、高校生 61 人

\*秋まつり

金沢図書館の読書フェスティバル期間とあわせ、国際交流ラウンジかもめ教室・親と子のつどいの広場ふきのとうと連携し、外国語の絵本や、ふきのとうおすすめの本の展示の他、カナカツに集う中高生世代おすすめの本の展示を行った。

(参加者) 小学生 54 人、中学生 29 人、高校生 24 人、大学生 10 人、大人 30 人

(4) 青少年育成に取り組む地域団体・機関及び支援者との情報交流やネットワークづくり及び人材育成

\*地域の連絡会

南部地域若者支援連絡会などの地域の会議や区役所での校長会、民児協の定例会などを通して、事業の周知や報告を積極的に行っている。

	<p><b>*金沢区内の中学校・高等学校との連携</b></p> <p>美術展やボランティア体験などの企画を通して、中学・高校との連携を行っている。また、中学生の職業体験の受け入れもしている。さまざまな事情のある生徒が利用する場合は、学校や関係機関との情報共有を行い連携している。</p> <hr/> <p>(5) 主に中・高校生を対象とした学習支援等</p> <p><b>カナカツ自習室</b></p> <p>中高生世代が落ち着いて学習できる環境を整え、定期的な利用があった。また、今年度も大学生の利用があった。特に学校の定期試験前や高校受験前の利用数が多かった。</p> <p>(利用者) 中学生 67 人、高校生 65 人、大学生 11 人</p> <hr/> <p>(6) その他、本市が必要と認める事業</p> <p><b>保護者へのアプローチ</b></p> <p><b>*思春期の子をもつ保護者対象セミナー開催</b></p> <p>R4年度は、「思春期の心と性～コロナ禍のこころの後遺症を考える～」というテーマで講師に岩室紳也氏をお招きし、保護者、支援者などに向けたセミナーを開催。昨年度に引き続き、オンライン開催となった。事前に参加者へアンケートを実施し、質問を受け講師へ共有していたため、講義の中でとりあげていただき、リラックスした雰囲気セミナーを進めることができた。参加者へのアンケートも実施。新たな気づきや発見・学びがあった等の講師への感謝と共に、次年度も参加したいとの意見が多く好評だった。</p> <p>(参加者) 大人20名</p> <p><b>広報</b></p> <p><b>*カナカツホームページ</b></p> <p>本事業の活動の様子を具体的に発信し、活動の紹介だけでなく、イベントチラシの掲載などを通じて参加者の募集などを積極的に行った。</p> <p><b>*区内民生委員・児童員協議会、校長会、青少年指導員協議会等での周知</b></p> <p>ボランティア体験等のイベントについては、区内の小中高校に活動紹介やチラシの配布を行った。また地域の掲示板や回覧板での告知もお願いした。</p>
<p>成果</p>	<p>中高生が気軽に立ち寄れるフリースペースの運営や、季節のイベント、ボランティア体験や美術展等を通し、地域との連携が進み、多くの小中高生の利用があった。中には悩みや課題を抱えたメンバーもいたため、関係機関と連携しながらサポートを行うことが出来た。また、移転後は、特に移転先の商店街や地域との関係作りを積極的に行い、共に子ども達を見守る体制作りを新たにした。小学生のみならず、中高生の利用も増え、子ども達からのアイディアにより、拠点作りが積極的に行われている。</p>

<p>課題</p>	<p>広報について 金沢文庫周辺やイベント等に参加した子ども達、関係機関等には知られているが、まだカナカツを知らない方も多いため、広報活動が課題となっている。</p>
<p>区のコメント</p>	<p>・「カナカツ美術展」は、区内の中学・高校や金沢国際交流ラウンジと連携し、開催しています。また、同美術展は商店街の中に位置する「金沢文庫ふれあい会館」で行うなど地域との連携を進めていました。</p> <p>・「カナカツ秋まつり」では、金沢区読書活動推進事業「金沢区読書フェスティバル」に参加し、金沢国際交流ラウンジのかもめ教室（こども向け日本語教室）、親子の集いのひろばふきのとうとも連携するなど、新規のこども達の利用を促す機会を設けていました。</p>

栄区	「フレンズ☆SAKAE」		運営団体	社会福祉法人 地域サポート虹	
住所	栄区桂町 711 さかえ次世代交流ステーション 2階 (本郷台駅 徒歩 15分)				
開設日	H23年3月		面積	331.35㎡	
(R5) 補助金額	3,990千円		スタッフ配置人数/日	火・金・土 2人 水 1人 火・金は6時間1人、5.25時間1人	
実施日時	火曜日、水曜日、金曜日、土曜日 15時から20時まで (土曜日のみ10時から18時まで) 週4日 平日：5時間×3 土曜日 8時間 計 週23時間				
利用者数 (1日あたりの 利用者数)	H30 4,772人 (22人)	R1 4,058人 (19人)	R2 1,901人 (9人)	R3 2,180人 (10人)	R4 3,193人 (15人)
施設特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さかえ次世代交流ステーションの中にあり、地域子育て支援拠点にこりんく、基幹相談支援センター、後見的支援室が同じ建物にあって、日ごろから、連携・協力して事業を行っている。</li> <li>・さかえ次世代交流ステーションの共有部分を使用することができ、広いスペースや地下の防音スタジオを活用した活動を行うことができる。</li> <li>・障害者施設があるため、障害を持った方との交流の機会も多く、発達障害や精疾患、障害を持った青少年の利用があり、双方に取って育ちの場となっている。</li> <li>・にこりんくのプログラムはフレンズ☆SAKAEのすぐ隣で行われることも多く、乳幼児親子の様子やプレパパ・プレママ講座等の様子を見ることができ、青少年が最近の子育て事情を知る機会も多い。</li> </ul>				
R4 活動内容 (青少年の地域活動拠点づくり事業実施要綱に対比)	<p>(1) 中・高校生世代を中心とした青少年が気軽に集い、自由に活動する場の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・火・水・金曜日の15時～20時、土曜日の10時～18時に、青少年が気軽に集い、自由に活動できる居場所を開設した。</li> <li>・課題の見えた利用者については、必要な機関に繋ぎ、連携して支援を行いつつ、その利用者の得意なこと、好きなことをみつけ、それを応援することで自己肯定感を育んだ。</li> <li>・食生活に注意を払い、食事が取れていない利用者については、食糧支援を利用する等のサポートを行った。</li> <li>・個別支援級、発達障害のある子の利用が増えてきた。特性に配慮しつつ、ルールやマナーを伝え、コミュニケーション力が育つよう配慮した。</li> </ul>				

(2) 中・高校生世代を中心とした青少年が、仲間や多世代と交流する機会の提供

・地域のイベント等において、青少年が参加できる機会を積極的に作り、さまざまな場面で活躍できるよう努めた。

・egao フェスティバル、栄いちばんまつり、クリーン&クリスマスパーティー、ダンス&ミュージックフェスタ等、新しいイベントに参加し、同世代や異世代と交流することができた。

(SAKAE ヤングフェスティバル参加者) 小学生 9 人、中学生 8 人、高校生 7 人、大学生 3 人  
<連携団体> 栄区役所、栄区青少年指導員協議会、栄区公立中学校

・イベントによっては、地域の団体とのコラボレーションにより、青少年が高齢者と一緒に活動することも多く、地域の大人たちに今の青少年を知ってもらう機会にもなった。

・ダンスやアート、書道など、拠点で行った活動では、中高校生世代を中心に大学生世代までの参加があり、高校卒業後に進学しなかった 20 歳前後の若者も参加し、幅広い年代の青少年同士が交流した。

(利用者) 小学生 230 人、中学生 254 人、高校生 93 人、大学生 55 人、青少年 2 人、大人 28 人

(3) 中・高校生世代を中心とした青少年を対象とした、地域資源を活用した社会参加プログラムの実施

・プレイパークボランティアでは、毎回参加することにより、不得手だった小さな子どもと遊ぶことができるようになる等、利用者の成長が見られた。

・栄区民まつりでは、さまざまな施設や団体の出店ブースでボランティアを行い、地域の施設や団体の方々と活動を行った。地域子育て支援拠点にこりんくブースでは、幼児向けあてくじ等、子どもたちとふれ合い、四都市さかえみらい会議および栄区友好交流都市の各テントでは、栄区の大人たちとともに、長野県栄村・青森県南部町・山形県高島町の方々と物産紹介を行ったり、各都市のクイズやアンケートを行った。

(利用者) 小学生 7 人、中学生 9 人、高校生 15 人、大学生 12 人、青少年 2 人  
<連携団体>

桂山プレイパークの会、栄区役所、四都市さかえいらい会議、地域子育て支援拠点 にこりんく、プランズシティ本郷台、OYAKO CLUB チューリップー時預かり、なないろ保育室

・ティーンズクリエイションでは、中高校生世代の作品展開催に向け、さかえ de つながるアート、公益社団法人かながわデザイン機構、横浜市立桂台中学校オレンジの会、横浜市栄区民文化センターリリス等とともにさまざまな活動を行った。

(利用者) 未就学児 8 人、小学生 45 人、中学生 119 人、高校生 46 人、大学生 23 人、青少年 5 人、大人 372 人

<連携団体> さかえ de つながるアート、公益社団法人かながわデザイン機構、横浜市立桂台中学校オレンジの会、横浜市栄区民文化センターリリス、横浜市栄区、横浜市栄区中学校校長会 他

(4) 青少年育成に取り組む地域団体・機関及び支援者との情報交流やネットワークづくり及び人材育成

- ・子育て支援団体連絡会に所属し、地域の施設や団体と情報交換およびネットワークづくりを行った。つるみヤングケアラーラボの協力により、ヤングケアラーの研修を行った。
- ・南部地域若者支援連絡会（南部ユースプラザ）、こどもの居場所連絡会（栄区社会福祉協議会）さかえっ子の笑顔ひろげ隊（栄区子ども家庭支援課）、自立支援協議会子ども部会（基幹相談支援センター）等に所属して会議や研修に参加し、情報交換やネットワークづくりに努めた。
- ・子ども家庭支援センターにじと共催で、不登校に関心のある保護者や支援者を対象に講座を開催した。元中学校校長先生を講師にお招きし、「不登校との向き合い方」をテーマにロールプレイングを交えての講座となり、参加者一人一人からの発言もあり、それぞれにとって学びの時間であると同時に、参加者同士や支援者、連携機関と顔の見える関係を築くことができた。

(5) 主に中・高校生を対象とした学習支援等

- ・原則火・水・金には大学生や元高校校長が学習支援を行った。
- ・通信制高校に在学している高校生の学び直しや、将来の進路の相談等、ニーズに沿った支援を行った。
- ・元高校校長による模擬面接を行い、その結果、面接の練習の成果があり、受験時の面接の得点が高かったという報告があった。

(利用者) 小学生 33 人、中学生 52 人、高校生 26 人、大学生 46 人

(6) その他、本市が必要と認める事業

■ さかえ次世代交流ステーションにおける連携を行った。

- ・さかえ次世代交流ステーション全事業所と合同でステーションまつりを企画、実施した。
- ・さかえ次世代交流ステーション全事業所と合同で防災訓練を行った。訓練後にはステーション全体の研修として薬剤師を講師に、効果的な感染症対策を考える研修を行った。

(利用者) 未就学児 82 人、小学生 15 人、中学生 6 人、高校生 13 人、大学生 2 人、青少年 4 人、大人 380 人

(連携団体) 栄区基幹相談支援センター、後見的支援室とんぼ、放課後等デイサービスぴっころんど、地域子育て支援拠点にこりんく

■ 広報活動を行った。

- ・広報よこはま栄区版 2 月号にフレンズ☆SAKAE の特集記事が掲載され、新規の利用に繋がった。
- ・令和 3 年度の活動報告やティーンズクリエイションの募集・告知チラシの配布において、中学校校長会に協力を依頼し、全校配布を行った。
- ・青少年指導員協議会、民生委員主任児童員、PTA 連絡協議会等の会議で周知を行った。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さかえっ子の笑顔ひろげ隊が区内中学校2校で行った「いのちの授業」において、利用者の大学生ボランティアが中学生に向けてフレンズ☆SAKAEの紹介を行った。</li> <li>・大学生利用者が中心となり、利用者の中高校生世代が出演し、フレンズ☆SAKAEの紹介動画を制作した。紹介動画はティーンズクリエイション作品展や拠点報告会で流し、広く周知に努めた。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生、高校生世代、大学生世の幅広い年代の青少年同士が、趣味や好きなものについて談笑し、顔見知りとなれたことをきっかけに、やがて仲間となっていく場面が見られる。そうした経験を通じて、これまで出会ったことのない、自分とは異なる環境にある同世代や異世代を知り、世の中にはさまざまな人がいることを知っていく。障害のある方、子育て中の家庭等とも出会える機会が多く、多様性を実感できる場となっている。</li> <li>・利用者の興味や特性に応じたさまざまなボランティアやプログラムを企画・実施、特性を個性につなげ、長所をさらに伸ばすことにより、自己肯定感が育まれ、自信となって自ら外交的になっていく姿が見られた。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害を持った人の相談機関と同じ建物にある影響もあってか、愛の手帳B2程度の課題を持った青少年の利用が多い。高校生世代以降になると、居場所としてのつなぎ先がないため、継続利用となっている。現在のところ、年長者でも22歳～23歳程度だが、どのように卒業させていくか課題である。</li> <li>・自分の話を聴いてほしい利用者が多いが、職員が対応できない状況もあり、話したい気持ちを受け止めきれないこともある。思春期の利用者たちと信頼関係を築くことは容易いことではなく、タイミングを逃さず、傾聴できる環境を整えていきたい。</li> <li>・予算、人手の充実が課題。</li> </ul>
区のコメント	<p><b>【区の開り方】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「フレンズ☆SAKAE」のスタッフと細やかにコミュニケーションを図り、必要な場合は協力して課題のある利用者への対応支援を行っている。</li> <li>・広報よこはま栄区版に「フレンズ☆SAKAE」の特集記事を掲載。区内全域の青少年や保護者、関係団体等に拠点を周知し、新規利用者の増加につなげたとともに、区内の青少年関連団体等とのパイプづくりに役立てた。</li> <li>・次世代交流ステーション内の施設整備等を実施。</li> </ul> <p><b>【地域との関係性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営団体は開所以来、積極的に地域の機関や団体、施設内の各事業者と連携してきたことで、地域での青少年の見守り、地域資源を利用した青少年向け講座の実施等、良好な関係を築いている。また、課題のある利用者については、地域の支援関係機関や団体と連携し対応を行っている。</li> </ul> <p>例) 区内中学校、栄区基幹相談支援センター、こども家庭支援センター など</p>



**【区内に青少年地域活動拠点があることに対する所感】**

- ・フレンズ☆SAKAEを訪れると、いつも青少年達が自然体で思い思いに過ごしている。利用者に話を聞くと「第二の実家みたいで安心できる」「家で話せない事もここだと話せる」「大切な場所」など、青少年に必要な場所であることが伝わってくる。青少年期の課題は、長期化する傾向があり、早期に発見し、適切に支援することが必要なため、身近な地域に信頼でき、必要な時に相談できる大人がいる場所（サードプレイス）があることはとても重要であると考えます。

**【課題や要望】**

- ・青少年の地域活動拠点は、当初、居場所機能を基本として開所したが、青少年を取り巻く環境が変化し、拠点が担う役割が変化している。家庭環境や不登校、発達障害などの様々な課題を抱える青少年が増加しており、保護者を含む家族支援や本人の社会的自立などの支援が必要となっている。今後は、青少年が抱えるさまざまな課題に対応でき、必要な時に必要な人材・制度に繋ぐセーフティネット的な役割を担える拠点づくり事業を検討していく必要がある。



都筑区	「つづきMYプラザ」		運営団体	特定非営利活動法人 つづき区民交流協会	
住所	都筑区中川中央1-25-1 ノースポート・モール5階 都筑多文化・青少年交流プラザ (センター北駅 徒歩3分)				
開設日	H19年12月		面積	241.20 m <sup>2</sup>	
(R5) 補助金額	8,410 千円		スタッフ配置人数/日	2人(常勤1名+時給職1名) (シフト) 午前:3.75時間 午後:3.5時間 (土日祝4.75時間) 夜間:4.25時間	
実施日時	月曜日から日曜日まで(毎月第3月曜日は休館日、祝日の場合は翌日) 10時から21時まで(土曜日、日曜日、祝日は18時まで) 週7日 平日:11時間×5 土、日曜日 8時間×2 計 週71時間				
利用者数 (1日あたりの 利用者数)	H30 16,467人 (47人)	R1 14,860人 (42人)	R2 8,155人 (23人)	R3 11,636人 (33人)	R4 8,288人 (23人)
施設特色	都筑多文化・青少年交流プラザ(つづきMYプラザ)は、青少年の地域活動拠点と、国際交流ラウンジ機能を併設する施設です。同じ場所で同じスタッフが二つの機能を担い、地域ネットワークを構築しながら事業を展開しています。特に「はあと de ボランティア」では連携先として多くの施設団体とのつながりを持ち、ケースによっては参加する青少年の特性を学校連携の中で共有し、参加者がより良い活動につながられるよう対応しています。「多世代・多文化が行き交う交差点」を合言葉に、学校も学年も越え、国籍や障害のあるなしにかかわらず、受け入れ寄り添うことを信条としています。				

R4 活動内容 （青少年の地域活動拠点づくり事業実施要綱に対比）	<p>(1) 中・高校生世代を中心とした青少年が気軽に集い、自由に活動する場の運営</p> <p>フリースペースとして利用できる「ラウンジ」は、黙々と勉強する中高生だけでなく、友人同士のおしゃべりや勉強、学校行事の準備など、「自分たちがやりたいこと」のために自由に利用されています。「多目的室1」には自習する場を求めて、おもに高校生世代が多く来館し、一人で集中したい中高大学生世代の利用がほとんどです。またダンススタジオや音楽スタジオは、友人とともに練習をしたり、個人練習をする光景が見られます。いずれのスペースも、利用後には清掃や消毒をしてもらうため、それを機にスタッフとのやり取りがあり、会話が生まれます。</p>
	<p>(2) 中・高校生世代を中心とした青少年が、仲間や多世代と交流する機会の提供</p> <p>つづき MY プラザでは、毎年開催する「プラザまつり」や「MY つづき一番コンテスト」等をとおして、青少年が参画する機会を提供しています。プラザまつりは国際交流イベントの要素もあるため、外国籍住民との交流や世代を越えたボランティア活動を経験します。また MY つづき一番コンテストは、中学校の部活同士が作品披露をとおして交流する機会であり、互いの発表を聞き鑑賞することで、学校生活では経験できない学びにつなげます。</p> <p>&lt;MY つづき一番コンテストの実施 R4 実績&gt;</p> <p><b>【連携団体数】</b> 5</p> <p><b>【参加人数等】</b> 中学生 36 名、教員 3 名、審査員 2 名、担当者 4 名 計 45 名</p> <p><b>【実績】</b> グランプリ「せせらぎ伝説～緑の道と憩いの場～」早渕中学校  クリエイティブ賞「港北ニュータウンの自然」都田中学校  特別賞「港北 TOKYU S.C.」茅ヶ崎中学校  チームワーク賞 茅ヶ崎中学校パソコン部</p> <p>(アンケートより)</p> <p>今回調べたものについて、より多くの知識を得たり、チームのみんなと協力し、良い作品を作ることができて楽しかった。他のチームの作品を見て都筑区の良いところが多くわかり、さらに都筑区への興味関心の気持ちが湧いてきました。</p> <p>&lt;第 15 回プラザまつりの開催 R4 実績&gt;</p> <p><b>【連携団体数】</b> 6</p> <p><b>【参加人数等】</b> 未就学児 20 人、小学生 30 人、中学生 50 人、高校生世代 100 人、大学生世代 30 人、大人 350 人（来場者、ボランティア）</p> <p><b>【実績】</b> ◆開設 15 周年ありがとう「つながりの写真展」◆アンゴラ共和国ってどんな国？  ◆日本の文化を楽しもう（折り紙、生け花、水引細工、書道）</p>

◆ミニステージ（日本舞踊、都筑区長と外国籍区民の対談、多言語おはなし会、南京玉すだれ披露と体験、スリランカ舞踊、エクアドル舞踊）

◆いろいろな国のクラフトコーナー（イングランド、ブラジル、エクアドル、ドイツ、ウェールズ、インド、ウクライナ）

◆ゆかたを着てみよう！（背景画を中川中学校美術部が制作）

\*4年ぶりの開催となったプラザまつり。多くの区民が待ち望んでいました。区内で働く多くの技能実習生はじめ、外国籍区民も体験型国際交流イベントを楽しみ、それをボランティアとして支える高校生・大学生世代も、交流をしながらともに楽しんだイベントとなりました。

### (3) 中・高校生世代を中心とした青少年を対象とした、地域資源を活用した社会参加プログラムの実施

「はあと de ボランティア～中高生のための夏休みボランティア体験～」は、中高生が夏休みを活用して取り組む地域活動です。区内にある多くの施設や団体が、活動受入れ先として青少年を支え、プログラムの担い手となります。都筑区青少年指導員連絡協議会も、平成24年（2012年）から共催として参加しています。また平成27年（2015年）には中高生が主体的に翌年度のプログラムを企画する「STEP UPプログラム」がスタートし、区内地区センターとの連携を進めました。この他に、活動受入れ先としてユニクロ港北東急店等、民間企業も参加しています。長年本事業をとおして地域とのつながりを深め、ともに青少年育成に携わる意識を醸成しています。また、あらたに受入れ先として名乗りを上げる施設団体等もあり、コラボレーション企画など、単独ではできない魅力あるプログラムに挑戦しています。

<はあと de ボランティア R4実績>

【連携団体数】 連携団体 11 受入れ団体数 32 プログラム数 55

【参加人数等】 中1：29人、中2：61人 中3：34人（計124人） 高1：38人 高2：33人 高3：50人（計121人） のべ活動人数：中高生334人、のべ活動回数：中高生363回

【実績】今年度は「自分自身の存在意義を確かめたい」という参加者の思いを感じた夏でした。誰かの役に立ちたい、自分にもできることを見つけたい、自分にもできたと感じたいと語る多くの参加者がいました。「ボランティア活動がはじめてだったので不安もありましたが、人の温かさを頭から足まで感じることができ、私も幸せになりました。」という参加者の声がある一方、「子どもたちの様子、感想を読み、満足してくれたことがわかった。担当したスタッフもサポートに充実感を持ち、感動や学びがたくさんあった。施設でこのような交流体験を実施することができ、本当に嬉しいです。」という受入れ先の声もありました。本事業をとおして、相乗効果があったことが伺えます。

<STEP UP プログラムの実施 R4 実績>

第7期 STEP UP プログラムは、2021年9月から2022年8月にかけて活動しました。

【STEP UP 登録メンバー数】

中学：継続8人、新規6人（14人） 高校：継続10人、新規11人（21人）

専門学校・大学：継続4人（4人） 合計：継続22人、新規17人（39人）

(4) 青少年育成に取り組む地域団体・機関及び支援者との情報交流やネットワークづくり及び人材育成

「はあと de ボランティア」事業に於いて、活動受入れ先として参加した団体や施設等に呼びかけて、受け入れ先振り返りの会を実施します。これにより活動に関する情報共有や改善点の共有、あらたな気づきを得られるよう努め、継続すべき点を確認しつつ翌年度につなげます。

(5) 主に中・高校生を対象とした学習支援等

該当なし

(6) その他、本市が必要と認める事業

子どもが抱える問題の多様化から、課題が重層的に絡み合うことが多く、保護者自身が悩みを抱え、安心して話す場所を必要としている現状があります。これを念頭に、年一回開催する「思春期セミナー」をとおして施設の周知を図り、誰もが安心して話すことができる場所であることを伝えます。また必要に応じて専門機関につなぎます。

施設情報や事業広報のため、毎月プラザニュースを発行し、関係機関や区内公共施設等に配架します。年間をとおして受け入れる中学生の職場体験や高校生のインターンシップでは、プラザニュース紙面づくりを体験プログラムとして取り入れます。作成は、スタッフが二人組持ち回りで担当するため、全スタッフがMYプラザの機能や事業に対する理解を深めます。さらに、スタッフとしての役割を学ぶ機会にもなっています。

<思春期セミナーの実施 R4 実績>

【参加人数】 一般参加者 33名

【実績】 講師：宮崎豊久さん（学校課題解決支援専門家/インターネットポリシースペシャリスト/日本思春期学会性教育認定講師/千葉県認定里親

対象：思春期の子育てに悩んでいる方、思春期問題に関心のある方など

	<p>(参加者アンケートより)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・依存のことばかり考えていましたが、依存の説明に至るまでの話がとても参考になりました。ゲーム・スマホを辞めさせたいということばかり考え、答えばかり求めていたので、もう一度考えていきたいと思いました。</li> <li>・もっと聴いていたかった。非常にお話が短く感じた。表面的ではない、深掘したお話をエビデンスに基づいたものごと自身のお話を織り交ぜ、すべてのお話が、ストンと腹に落ちた。</li> </ul> <p>&lt;地域人材・支援団体との連携体制構築・強化と相談コーディネーター研修の実施&gt;</p> <p><b>【連携団体】</b> 6 (4 地区センター)</p> <p><b>【実績】</b> ◆副館長、相談員による月 1 回の地区センター訪問と情報共有 副館長：延べ 61 回、80 時間 相談員：延べ 48 回、44.5 時間</p> <p>◆合同研修会の実施</p> <p>全 2 回「助けてと言わない人の微弱な SOS をキャッチできる支援者になる」 NPO 法人パノラマ理事長 石井正弘さん</p> <p>参加者 第一回：79 人、第二回：75 人</p> <p>◆全体連絡会の実施 令和 4 年 11 月 2 日 (水) 13 時 30 分から 参加者 10 人</p>
<p>成果</p>	<p>開設以来、さまざまな取組を通して地域ネットワークを構築してきました。幅広い機能を持つ MY プラザは、その役割を果たすため、揺らぐことのない地域基盤を作り、ボランティア人材の育成が大きな課題でした。多様な引き出しを持つことが課題解決につながり、生きた情報提供となります。そして最終的には将来を見据えた柔軟な対応とその先の発展を描くことができます。これまでの成果をあげるなら、知識と経験に裏打ちされた地域ネットワークであり、社会変化の中でも変わることなく協力し合える関係性を構築していることだと考えます。</p>
<p>課題</p>	<p>求められる機能に見合った人件費とスタッフ育成</p> <p>スタッフ育成には時間が必要です。経験を積み、それを活かせるようになるまでには本人の努力、運営者の見極め、研修等の教育が必要です。施設運営と人材育成は、同時並行で考えなければいけません。施設には人が必要ということです。</p>

<p>区のコメント</p>	<p>つづき MY プラザは開設当初から現在に至るまで、都筑区の地域ネットワークの中心として青少年支援を担っています。事業の柱の一つである中高生のための夏休み体験事業「はあと de ボランティア」では参加を希望する学生たちの数が年々増加し、令和4年度には245名もの中高生を受け入れました。プログラム内容も参加者が「ボランティアをもっとやってみたい」と思えるようなものを地域の協力のもとに幅広く用意し、年々高まりを見せる青少年のボランティアニーズに積極的に応えています。また、1年かけて子どもたちが主体的に翌年度のプログラムを企画する「STEP UP プログラム」では環境、国際、防災、障害、子どもの5班に分かれて区役所や地区センター等で区民向けイベントを開催しました。活動を通じた STEP UP メンバーの学びの向上は大きく、メンバーの中には「最初は親や学校に言われてボランティアを始めてみたが継続的にやってみたくなくなった」という子も多く、多世代交流を通じた社会性、自主性の育みに大きく寄与しています。</p> <p>近年は北部エリアを中心に区外在住者の利用も増えており、区を超えて学校とは異なる居場所（サードプレイス）を求める青少年の受け皿となっています。加えて、市内で唯一国際交流ラウンジ機能を併設しているため、外国につながる青少年への生活・学習支援の面でも効果的なアプローチがなされています。</p> <p>一方で、青少年を取り巻く環境の変化に伴い、MY プラザには利用者のみならず、行政や地域団体から様々な青少年支援・育成に関する相談が寄せられており、MY プラザの負担は年々増加しています。上記課題欄に記載のある通り、継続的な施設運営には業務内容に見合ったスタッフの量・質を確保しなければなりません。「第3期子ども・子育て支援事業計画」の策定にあたっては、青少年の地域活動拠点に何を、どこまで求めるかを改めて整理し、必要に応じた十分な運営支援が必要と考えます。</p>
---------------	--



保土ケ谷区	「Happy Square」	運営団体	NPO法人 リロード		
住所	保土ケ谷区天王町 1-30-17 (天王町駅 徒歩7分)				
開設日	H19年10月	面積	73.10㎡		
(R5) 補助金額	4,538千円	スタッフ配置人数/日	1人(5時間) 1人(3時間)		
実施日時	火曜日から土曜日まで 15時から20時まで(土曜日のみ13時から18時まで) 週5日 平日:5時間×4 土曜日 5時間 計 週25時間				
利用者数 (1日あたりの 利用者数)	H30 2,777人 (10人)	R1 2,211人 (8人)	R2 1,056人 (4人)	R3 1,151人 (4人)	R4 521人 (2人)
施設特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カフェ風なカウンターがあり、落ち着いた色合いの内装で、リラックスできる環境になっている</li> <li>・畳の和風の間があり、そこでくつろいだり、過ごすこともできる</li> <li>・Free Wifiが設置されている</li> <li>・PCが自由に活用できるようになっている</li> <li>・建物の1階で道路に面しており、通行する人からも認識されやすい</li> <li>・近隣に大規模商業施設や賑わいのある商店街がある。</li> <li>・登録することなく利用できるようになっている</li> </ul>				
R4 活動内容 (青少年の地 域活動拠点づ くり事業実施 要綱に対比)	<p>(1) 中・高校生世代を中心とした青少年が気軽に集い、自由に活動する場の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点内で行なう活動が中心で、季節に応じたイベント(七夕・ハロウィン・クリスマスの装飾など)やものづくりに取り組んだ。ものづくりしたものを福祉施設に寄附しに行くことにも取り組んだ。</li> <li>・施設に付帯している花壇の手入れをする園芸活動を月に2回程度の頻度で行なった。</li> <li>・保土ケ谷区社会福祉協議会と連携し、コンビニエンスストアの閉店に伴う物資の福祉団体等への寄附の受け取り場所としても活用し、物資の分類・渡すための仕分け作業・受け渡しの対応などを活動拠点に参加している中高生世代が行なった。</li> </ul> <p>【延べ参加人数】 65名</p> <p>(2) 中・高校生世代を中心とした青少年が、仲間や多世代と交流する機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の商店街の道のゴミ拾いや近くの公園の清掃など清掃活動を毎月行なった。</li> <li>・地域で行なわれるイベントに運営側として参加する団体と連携し、地域の大人たちと共に活動する機会を持った。</li> <li>・地域ケアプラザの障害児余暇活動やお祭りにサポーターとして参加した。</li> </ul> <p>【延べ参加人数】 38名</p>				

	<p>(3) 中・高校生世代を中心とした青少年を対象とした、地域資源を活用した社会参加プログラムの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主体的な活動として「Citizenship Trial」を行なった。地域での課題や社会的課題について、本来は集合して意見交換や討論を通じて成果を知らせる成果物を作成し、地域の方々に発表する機会を持つ計画だったが、感染症拡大の影響で集合することができず、個別にフィールドワークし、調査したものを示し合う形になった。</li> </ul> <p>【延べ参加人数】 64名</p> <hr/> <p>(4) 青少年育成に取り組む地域団体・機関及び支援者との情報交流やネットワークづくり及び人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>青少年指導員協議会及び主任児童委員協議会と情報交換やイベントの行き来は取り組むことができたが、中高生世代に関わる保護者などへの発信の機会は実施できなかった。</li> </ul> <p>【延べ参加人数】 7名</p> <hr/> <p>(5) 主に中・高校生を対象とした学習支援等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特に高校生世代からの要望があり、集中した学習支援活動「学習タイム」を年度後半から実施した。学習タイムの会場として保土ヶ谷区社会福祉協議会と連携し、多目的ルームを活用させてもらった。</li> </ul> <p>【延べ参加人数】 10名</p>
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で活動しにくい状況は多かったが、中高生世代の拠点内活動や地域でのボランティア活動など工夫しながら行なうことができた</li> <li>社会全体が停滞する中でも、中高生世代の活動の場、「出番」や「役割」を作ってもらい協力を得られた。</li> <li>中高生世代が困っている要素の1つである、学習について支援活動の場を作ることができ、近隣の大学生の協力を得ることもできた。</li> </ul>
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な場を創ることを意識しているが、中高生世代の日常の多忙さ（部活動、習い事、アルバイトなど）により、コロナ禍も重なって利用する中高生が減ってしまったこと。</li> <li>拠点外での地域活動の機会を多く創れなかった。</li> <li>拠点の認知と活用を呼びかける周知活動が充分に行なえていない。</li> <li>区内全域に周知することがなかなかできていない。</li> </ul>

区のコメント	<ul style="list-style-type: none"><li>・過去には、区主催事業実施にあたってスタッフを派遣いただく等関わりがあったが、当日にならないと人数が確定しないことや、コロナ禍により連携の機会は大きく減少している。</li><li>・利用者数が多いとは言えないため、その原因を整理し、様々な視点からアプローチをしていくことが必要だと考えている。</li></ul>
--------	---



南区	「M-base」		運営団体		みなみ青少年地域 活動拠点運営委員会
住所	南区睦町1-15-15 横浜青年館内（吉野町駅 徒歩7分）				
開設日	H22年2月		面積		189.37㎡
(R5) 補助金額	5,453千円		スタッフ配置人数/日		2~3人
実施日時	火曜日から土曜日まで 15時00分から20時まで (土曜日のみ10時から17時まで) 週5日 平日：5時間×4 土曜日 7時間 計 週27時間				
利用者数 (1日あたりの 利用者数)	H30 4,681人 (18人)	R1 3,802人 (14人)	R2 2,475人 (9人)	R3 3,058人 (11人)	R4 2,662人 (10人)
施設特色	<p>○横浜青年館内にあることで、音楽室、ロビーなどの使用も出来る。</p> <p>○中高生が参加しやすい放課後プログラムを実施している。</p> <p>○南区の居場所団体や南区、社協と連携した事業や定期的に打ち合わせを実施している。</p>				
R4 活動内容 (青少年の地 域活動拠点づ くり事業実施 要綱に対比)	<p>(1) 中・高校生世代を中心とした青少年が気軽に集い、自由に活動する場の運営</p> <p>○フリーWi-Fiや自由に使えるパソコンを用意し、ゲームや学習など自由に活動できる環境にしている。</p> <p>○エコマネーで駄菓子などを買えるようにしている。</p> <p>○スタッフが常駐し、相談や話し相手など一人でも過ごせるようにしている。</p> <p>&lt;R4 実績&gt;</p> <p>【利用者数】未就学児：17人、小学生342人、中学生590人、高校生400人、大学生156人、大人105人</p> <p>【連携団体】睦ヶアプラザ</p> <p>(2) 中・高校生世代を中心とした青少年が、仲間や多世代と交流する機会の提供</p> <p>○地域の多世代と協働、交流が出来るイベントを実施している。</p> <p>○異学年で実施する放課後プログラムを実施している。</p> <p>&lt;R4 実績&gt;</p> <p>・放課後体験型学習 プログラム</p> <p>【利用者数】小学生600人、中学生600人、高校生世代210人、大学生15人、大人60人</p> <p>【連携団体】南区役所、特定非営利活動法人ピュアスマイルスタジオ、特定非営利活動法人教育支援協会南関東</p> <p>【振り返り】小学生から大人(30歳代まで)の多くの青少年が参加した。高校生を中心に企画した漫画教室(マンガクラブ)では、中高生だけでなく、大学生世代の参加もあり、南区や他団体との連携も広がり、来年度以降も期待が持てるプログラムに発展している。</p>				

<p>・みなみボランティア 企画室</p> <p>中高生が中心になり、イベントやブース出店の企画・実施</p> <p>【利用者数】中学生 35 人、高校生 12 人、大学生 4 人</p> <p>【連携団体】みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ、睦ケアプラザ、ハートフルみなみなど</p>
<p>(3) 中・高校生世代を中心とした青少年を対象とした、地域資源を活用した社会参加プログラムの実施</p> <p>○地域の多世代と協働、交流が出来るイベントを実施している。</p> <p>(おみこし、えんにち、映画会など)</p> <p>&lt;R4 実績&gt;</p> <p>・Oneday キッズパークの運営補助</p> <p>中学生や高校生に運営に関わってもらい、地域の子どもたちや大人と交流を深めると共に、自ら企画に関わることによって、社会参画意識が芽生え、自己肯定感や自己有用感を醸成することを目指す。</p> <p>【利用者数】中学生 7 人、高校生 5 人、大学生 3 人</p> <p>【連携団体】蒔田公園愛護会、近隣の放課後キッズクラブ、共進中学校、蒔田中学校、横浜商業高校、大岡川アートプロジェクトなど</p> <p>・つながるフェス</p> <p>「お正月」をテーマにしたイベントから人や団体、高齢者、中高生、小学生がつながることを主な目的にした。</p> <p>【利用者数】中学生 36 人、高校生 7 人、大学生 5 人</p> <p>【連携団体】みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ、睦ケアプラザ、ハートフルみなみなど</p> <p>・サマープログラム</p> <p>中高生自らが企画運営する夏季ボランティアの実施。</p> <p>【利用者数】小学生 50 人、中学生 6 人、高校生 6 人、大学生 4 人</p> <p>【連携団体】みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ、睦ケアプラザ、ハートフルみなみ、横浜総合高校など</p>
<p>(4) 青少年育成に取り組む地域団体・機関及び支援者との情報交流やネットワークづくり及び人材育成</p> <p>○南区居場所ネットワークに参画し、情報交換やネットワークづくりをしてきた</p> <p>(2022 年度まで)</p> <p>○南区居場所団体交流会の企画委員として参画し、南区内の居場所団体同士の交流やスキルアップの機会をつくっている。</p> <p>&lt;R4 実績&gt;</p> <p>市民施設等の地域支援とネットワークづくり</p> <p>【参加者数】大人 200 名</p> <p>【連携団体】南区役所こども家庭支援課、南区役所地域振興課、南区社会福祉協議会、みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ、東部学校教育事務所など</p>

	<p>(5) 主に中・高校生を対象とした学習支援等</p> <p>○ロビーを中心に学習する中高生がいるが、具体的な学習を指導するなどの対応はとっていない。</p> <p>○長期休暇中や週末にボランティアの機会をつくり、社会性が育まれるような取り組みを行っている。</p>
成果	<p>○地域との連携が進み、いろいろな団体との協働が進んでいる。</p> <p>○南区との連携が進み、南区役所や南区文化祭に参加し、社会参加の機会につながっている。</p> <p>○5年目に入り、中高生の参加が増えており、地域の期待も高まっている。</p>
課題	<p>○拠点に常駐のスタッフと地域と連携を図るための（コーディネーター役）スタッフの人件費</p> <p>○設備面の老朽化</p>
区のコメント	<p>青少年の活動拠点、特に子どもの居場所として、重要な役割を担っている。</p> <p>区をはじめ、いろいろな施設や団体との連携の輪が広がりつつあると感じている。</p> <p>今後は、青少年指導員や町内会との繋がりができ、一緒に地域ぐるみで子どもたちの社会性が育まれるような取り組みができるとよいと考える。</p>





中区	「青少年交流・活動支援スペース」(さくらリビング)		運営団体	公益財団法人 よこはまユース	
住所	中区桜木町1-1 桜木町ゴールデンセンター(ぴおシティ)6階 (桜木町駅 徒歩3分)				
開設日	H19年4月		面積	590.34 m <sup>2</sup>	
(R5) 補助金額	23,846 千円		スタッフ配置人数/日	2人(6時間) 2人(7時間)	
実施日時	月曜日から日曜日まで 午前9時から午後10時まで ※休館日は、毎月第1日曜日、12月29日から翌年1月3日まで (週7日 全日:13時間×7 計 週91時間)				
利用者数 (1日あたりの 利用者数)	H30	R1	R2	R3	R4
	38,363人 (110人)	37,094人 (106人)	15,270人 (44人)	17,938人 (51人)	19,560人 (56人)
施設特色	<p>○ 青少年交流・活動支援スペース(愛称:さくらリビング)は、桜木町駅前ぴおシティ6Fにある中高生世代など24歳未満の青少年なら誰でも自由に利用できる青少年のための施設です。</p> <p>○ 桜木町駅直結、ひとりでも友達と一緒にでも気軽に立ち寄れる無料のフリースペース(Wi-Fi完備・充電可)、個別ブースもある学習スペース、大・小の会議室や音楽・ダンススタジオなどレンタルスペースも無料(スタジオのみ有料)で利用できます。</p> <p>○ 青少年や保護者の相談にも対応します。</p> <p>○ 青少年がさまざまな「人、考え方、体験」との出会いを通じて、「社会につながり、社会で生きる力“を育むことを目的に、青少年の交流・体験機会の提供や社会参加プログラムなどさまざまな事業を実施しています。</p>				
R4 活動内容 (青少年の交 流・活動支援 事業実施要綱 に対比)	<p>(1) 青少年が交流する機会の提供</p> <p>①居場所の提供(フリースペースの運営) 青少年が気軽に安心して過ごすことのできる場を提供しました。 ■フリースペース利用者数:6,293人</p> <p>②交流促進事業 多様な交流プログラムを通して、青少年の出会いと仲間づくりを支援しました。 ■参加人数合計:67人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ボードゲームを用いたカフェ型交流会」(2回)20人</li> <li>・「映画研究部」(8回)19人</li> <li>・「着物をテーマにした部活動」(4回)12人</li> <li>・「ミニさくレビカフェ」(4回)16人</li> </ul>				

(2) 青少年の体験機会や活動の場の提供

①諸室の貸出

音楽スタジオ、研修室、多目的ルームなど設備を貸出して、青少年の自主的な活動を支援しました。

■貸室利用者合計：35,537人

《内訳》青少年13,226人 育成者10,208人 一般12,063人

■稼働率：43.9%

《内訳》青少年14.2%、育成者13%、一般16.4%

②青少年チャレンジ事業

青少年が主体的にチャレンジすることができる機会を提供しました。

- ・「子どもフェスティバル」へのブース出店 企画・実施9人
- ・「おさんぽフォト」(2回) 企画・実施1人
- ・「中高生が教えるスマホで撮る綺麗な写真講座」 企画・実施3人

③困難を抱える青少年の学習支援や居場所づくり活動の支援

- ・「高校生への学習支援事業」33人 連携先(一財)神奈川ゆめ社会福祉財団
- ・「小中高生への学習支援事業」18人 連携先:あすのち
- ・「さくりびほけんしつ」9人 連携先:横浜 AIDS 市民活動センター

(3) 青少年に対する傾聴及び相談(保護者の相談を含む。)

①日常的な相談支援事業

青少年に日常的な相談・助言、傾聴の機会を提供しました。 ■相談・傾聴件数：275件

②個別相談事業

青少年とその保護者からの個別相談に対応しました。 ■相談件数：49件

③青少年向け啓発事業

青少年向けの啓発として外国につながる青少年をテーマにした写真展を開催しました。

- ・「外国につながる中高生の写真作品展」23人 連携先:Picture This Japan

(4) 地域資源を活用した青少年の社会参加プログラムの実施

①青少年ボランティア体験事業

ボランティア体験を通して地域や社会、仕事について知り、将来を考えるきっかけとなる体験機会を地域のさまざまな社会資源を活用して提供しました。

- ・「街角清掃ボランティア”マチピカ”」(11回)97人 連携先:中土木事務所
- ・「中高生夏期ボランティア」137人 活動受入団体:15団体
- ・「関内まち清掃ボランティア」10人
- ・「横浜マラソン給水ボランティア」18人 連携先:横浜マラソン組織委員会
- ・「中区民まつりボランティア」5人 連携先:中区役所地域振興課

②社会体験・就労体験事業

青少年が社会や仕事について知り、将来を考えるきっかけとなる社会体験、キャリア体験の機会を提供しました。

- ・「映像制作ワークショップ：1分動画まちおこし」(全4回) 7人
- ・「中学生からの社会見学：資生堂 S/PARK Museum」14人 協力：資生堂グローバルイノベーションセンター

③青少年委員会の運営

さくらリビングの運営や事業企画、地域の青少年育成に青少年の声や視点を反映し、青少年が主体的に活動できる場として「青少年委員会」を募集し、年間での委員会活動をサポートしました。

- ・登録人数：7人
- ・主な活動：定例会の開催(14回、7月～3月)、フリースペースのレイアウト変更、利用者向けのアンケート、こども向けイベント(切り絵教室)の企画実施

(5) 青少年と異世代との交流の促進

①近隣地域や区役所、学校、関係機関等との連携

地域の活動団体が実施する事業への参加・協力を通じて青少年と異世代との交流促進に取り組みました。

- ・「どこいき隊と連携したまち案内ボランティア活動」(7回) 21人

(6) 「青少年の地域活動拠点づくり事業」の運営支援

①青少年の地域活動拠点との情報交換会

各区の青少年の地域活動拠点を利用している青少年を対象としたオンライン交流会を実施しました。

- ・「青少年の地域活動拠点とのオンライン交流会」5拠点
- ・内容：アイスブレイク、活動紹介、質疑、交流

②青少年の居場所機能の検討

さくらリビングを利用する青少年からの日常的な相談や傾聴内容の検討、オンライン交流会でのヒアリングを行いました。

(7) 青少年施策推進のための青少年の実態、ニーズ、意見の把握と本市への情報提供

①青少年及び利用者へのアンケートの実施

利用者アンケートや青少年へのアンケートを行い、青少年のニーズや課題、事業運営への意見を聞きました。

- ・利用者アンケートの実施 ■回答数 103件、満足度 100%
- ・フリースペース利用者(青少年)アンケートの実施 ■回答数 100件、満足度 96%
- ・主な意見：「飲食を伴うイベント再開してほしい」「居心地がよくて過ごしやすい」等

②運営状況や青少年ニーズ等の市への定期報告

さくらリビングの運営状況や青少年ニーズについて四半期ごとの報告を行いました。

	<p>(8) その他、本市が必要と認める事業：地域・学校と連携・協力した青少年の育成</p> <p>①近隣学校の職業体験等の受入れ、コーディネート（4校6人）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・駒澤大学社会教育実習生：2人（8～9月、各14日間）</li> <li>・立教大学社会教育実習生：1人（8～9月、9日間）</li> <li>・老松中学校職業体験：2人（9月、各1日間）</li> <li>・横浜総合高校インターンシップ生：1人（8～9月、2日間）</li> </ul> <p>②「青少年の交流・活動支援事業（さくらリビング）運営連絡会」の開催</p> <p>青少年の交流・活動支援事業の運営について、地域からの意見を反映し、地域連携を深めるために運営連絡会を開催しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営委員11人（自治会・町内会、青少年指導員、民生児童委員、区役所、市社協、教育事務所、学識者他）</li> <li>・内容：活動予定の報告、事業報告、意見交換</li> </ul>
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の状況に対応しながら、フリースペース運営や諸室の貸出を通して青少年の居場所や活動の場を切れ目なく提供しました。</li> <li>・青少年の日常的な相談への傾聴・助言、個別の相談対応を通じて青少年の悩みや課題解決の支援を行いました。</li> <li>・ボランティア体験をはじめとしたさまざま体験、交流促進に取り組み、横浜の青少年が地域や社会とつながり、体験を通して自ら学び育つ場づくりに取り組みました。</li> </ul>
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍に対応してフリースペースや諸室の利用制限を行っていたため、青少年の利用人数が減少傾向にあります。</li> <li>・高校生年代～20代の利用が多く、中学生以下の青少年の利用促進が課題です。</li> <li>・青少年へのアンケート結果からは、飲食をともなう交流会など気軽に参加できる交流促進事業へのニーズが高く、コロナ禍で実施できていなかった様々な活動の再開に取り組む必要があります。</li> </ul>
<p>区のコメント (西区)</p>	<p>地域における、青少年の集まる場として貴重な存在と思いますので、利用する青少年や育成者の方に、よりその存在を周知することができれば、より活用していただけるのではないのでしょうか。</p>
<p>区のコメント (中区)</p>	<p>交流の場や体験活動の機会をはじめ、フリースペースの運営など様々なアプローチから青少年の居場所を提供していただいています。中区は本牧方面まで住居地域が広がっており、バスや自家用車が交通の便になっています。本牧方面の中学生の生活圏と距離があり、通いづらい立地にあるため、さくらリビングの利用に繋がりにくい側面があると思われませんが、中学生以下の利用促進のための工夫を引き続きお願いします。</p>

## 青少年の地域活動拠点づくり事業利用者 グループヒアリング結果

### 1. 青少年交流・活動支援スペース さくらリビング（西区・中区）

ヒアリング日時	8/15（火）17：00～18:30
ヒアリング実施場所	さくらリビング ミーティングルーム
参加者	高校生世代 2人、大学生世代 3人 計5人 ※青少年委員及び一般の利用者
オブザーバー	横浜市こども青少年局青少年育成課 3人、さくらリビング職員2人、 株式会社浜銀総合研究所 1人
ヒアリング形式	ファシリテーター：高校生世代（利用者） ヒアリング方法： ファシリテーターを中心に、各参加者から項目に沿って意見聴取

#### テーマ1 もっと利用しやすく、居心地のよい場所に

##### （1）利用時間や曜日について

###### ① 利用している時間帯や曜日

- 青少年委員等活動がある日
- 大学が休みの日、学校の夏休みや大型連休など。
- 夕方に不定期の利用

###### ② 開所時間や曜日の要望

- いつでも好きな時に来られるから特になし
- 夜遅くまでやっているので使いやすい
- 休館日が少ないのがいい

##### （2）さくらリビングの施設・部屋・設備について

###### ① 現在の利用方法

- フリースペースでオンラインゲームや論文検索
- 勉強目的で自習室やフリースペースを利用
- フリースペースでスタッフや友達とおしゃべり

###### ② 施設や設備、利用ルール等についての要望

- テスト期間中に未利用会議室の開放
- 部屋のネット予約
- 自習スペース拡充（男女とも使いやすい）

##### （3）活動プログラム、イベント、ボランティア活動などについて

###### ① 過去に参加したプログラムやイベント、ボランティア活動

- 子どもフェスティバルに参加。普段さくらリビングにいない、幼稚園や小学校低学年くらいの子とのかかわりが新鮮だった。子どもの目線に寄り添って考えることができた。
- 活動支援スペースでたこ焼きパーティをした。食べ物があることで多くの人が来てくれて、普段話したことがない人とも話せた。
- さくらビカフェ。カフェで働いている人がさくらリビングに来て、コーヒーを入れてくれる、ということがあった。セルフサービスで紅茶を入れるなど、参加型だったのが良かった。
- 放課後キッズクラブのボランティア。当時、教育系に興味があり、子どもと触れ合う機会があるということで参加。小学生と遊ぶ以外にも、幅広いことをさせていただいた。

###### ② イベントや活動の企画に関するアイデア

- 飲食のイベントをまた開催できたら
- VRゲームなどに触れる機会があるといい
- 大学生や小中高生がいるので、勉強会みたいなのがあっても面白い
- 子ども以外の多くの人と関わる機会があるといい。

## テーマ2 まだ来たことがない人に、来てもらうには

### ① 初めてさくらリビングに来たきっかけ

- ボランティアを探していてサイトから見つけた。
- 中1の時に、部活の課外練習でレンタルスペースを借りたことがあり知った。その時に、掲示板のチラシを見て、興味があるイベントがあったのでそれに参加したら楽しかった。
- ボランティア参加をきっかけに、フリースペースを知って利用するようになった。
- 兄弟が使っていたこと。最初は勉強のために利用していた。

### ② さくらリビングを利用してよかったこと

- 青少年委員に入って、いろんなイベントを企画、運営し、多くのなかなか体験できない経験をすることができた。企画を考えるにあたって会話をすることで、相手に考えを伝えることができるようになった。
- 好奇心と一歩を踏み出す勇気が必要ということを知った。青少年委員が個性豊かで、考える視野を広げることができた。
- 一人っ子なので、子どもと関わる機会がない。子どもフェスティバルを通して、子どもと寄り添うと同時に、子どもにどう伝えるかを考えたとき、難しいところもたくさんあるということを学ぶことができた。
- スタッフ、利用者の方や委員の方など、様々な人と話すこと。新しい友達ができた。
- スタッフさんに毎回来た時に声をかけてもらえる。第2の家みたいな感覚で、居場所を作ってくれていることがすごくうれしい。

### ③ さくらリビングを多くの同世代の人に利用してもらうためのアイデア

- 外部の青少年のニーズ調査をした方がいい。小中学校にアンケートなどを取ってもらって、どんなイベントがあったら来たいか、知りたい。
- アニメ、映画、eスポーツ、コスプレなど、中高生が好きなジャンルのイベントを開ければ。

### ④ インターネットやゲーム等のICT活用

- パソコンの設置。小学生の頃他の青少年の地域活動拠点を利用したとき、すごく人気だった。
- テレビを置いて、eスポーツみたいなことをやれるといい。eスポーツ大会を開いてはどうか。体を動かすものだと健康的でいい。
- VR機器を使って体を動かせる。動ける範囲を指定すれば、ぶつからない工夫もできる。

## テーマ3 まだ知らない人に、知ってもらうには

### さくらリビングの広報に関するアイデア（年代別に）

- SNS を的確に使う。大学生や大人は、X（旧 Twitter）、中高生は、Instagram、TikTok を使っている人が多い。
- X（旧 Twitter）以外にも、Instagram や TikTok のアカウントもあるといい。X は、文字主体。Instagram や TikTok は、画像や動画。文字だけより、写真や動画を投稿したほうが、同世代の子たちに知ってもらえる。
- TikTok など、子どもたちが楽しそうにしている様子や音楽を演奏している様子を直接見せられるとよい。
- 人がいなくて、立地が良いのが利点。研修室で、花火大会を見たこともある。人がいないというのを宣伝するのはどうか。
- レンタルスペースの存在と、交流イベントを武器に発信しては。自習は、図書館やカフェで代用できる。さくらリビングならではのことを SNS で発信しては。大学生では学生団体、社会人では会議・面接などで、レンタルスペースやミーティングルームを利用できるのではないか。
- 学校の授業などで、施設の空きスペースを利用して、小学生が中高生と話すというような企画をやれば、多くの人に知ってもらえるのでは。
- 社会人や大人の方に宣伝するなら、桜木町の駅付近など、人が良く通る場所に、学生に対しては、学生がよく通る場所に広告を貼る。中学、高校、大学の学校掲示板にポスターなどを貼ってもらう。学校だより配るときに、一緒に伝えてもらうこともできるのでは。

### ●まとめ●

#### 利用時間・開所時間や曜日について

全ての参加者が、現在の開所時間・曜日に満足しており、追加的な要望は聞かれなかった。特に、朝の 9 時から夜の 22 時まで開所しており、「いつ行っても開いている」ところが良いという意見が聞かれた。

#### 施設、部屋、設備について

自習スペースなど、混雑しがちな場所があるという意見があがった。そのような場所に関して、「職員の方に声をかければ開いている場所を使わせてもらえることがあるが、知られていない」、「インターネットを利用して部屋の予約ができるようにしてはどうか」という声が聞かれた。施設の利便性向上が求められていることがわかった。

#### 活動プログラム、イベント、ボランティア活動などについて

- 過去に参加した活動に関しては、小学生以下の子どもと関わることができるイベントや、飲食を伴うイベントが好評であり、またやりたいという意見が多かった。
- 子どもと関わるイベントでは、子どもに寄り添って考えることが良い経験になったとする声もあり、異年齢との交流の中で、中高生の成長を促す可能性も示唆された。
- さくらリビング利用者以外の青少年との交流や、大人との関わりを求める声も多く、居場所を通じた他者との交流が求められていることがわかった。

## 利用してよかったこと

- 様々な活動を企画・運営したり、小さな子どもとイベントで関わる中で、他者に意見を伝えることができるようになったという声が聞かれた。様々な活動を通じて、中高生がコミュニケーション能力を向上させていることが確認できた。
- 拠点に来るたびにスタッフに声をかけてもらえ、「第2の家」のような感覚で居場所を作ってもらえているという声もあった。

## ICTの活用、広報のアイデア

- アニメやコスプレなど、中高生が好きなジャンルのイベント開催が集客につながるとの意見が出た。e-スポーツやVRゲームなど、体を動かすイベントの開催も求められている。
- SNSを活用した広報が重要だという意見が多かった。
- 学校と連携して拠点の周知を行ってはどうかという意見が上がった。学校にポスターを貼ってもらう、定期的にプリントを配布する、拠点のスペースを使って授業の中で拠点を利用する中高生と話す機会を作るといったアイデアが出た。



## 青少年の地域活動拠点づくり事業利用者 グループヒアリング結果

### 2. 青葉区青少年の地域活動拠点 あおばコミュニティテラス（青葉区）

ヒアリング日時	9/9（土）17:00～18:30
ヒアリング実施場所	あおばコミュニティテラス
参加者	小学生2人、中学生2人、高校生世代2人、 大学生世代7人（うちファシリテーター1人）
オブザーバー	横浜市こども青少年局青少年育成課 3人、株式会社浜銀総合研究所 1人 あおばコミュニティテラススタッフ 3人
ヒアリング形式	ファシリテーター主導のもと、参加者を6人ずつの2グループに分け、ワークショップ形式で実施。

#### （1）自分が居心地がよいと思う場所

※各自ふせんに記入し、他者と被らないと思うものを発表（下記はふせんの内容や音声を基に整理）

自宅等	家、自分の部屋、ベッド・布団、部屋のすみ、トイレ、芝生、リビング、風呂場、冷房がかかった部屋で布団にくるまる、お菓子のストックがある部屋、家の車
学校等	学校、休憩中の教室、部室、図書室、視聴覚室、楽器室、学校のラボ、ステージ裏（舞台や発表会の時の幕の裏）、
公共施設等	あおばコミュニティテラス、地区センター、公園、図書館、バスのすみっこ席、自然、芝生
民間施設等	カラオケ、カフェのすみっこ席、大戸屋、ホテル、コンビニ、スーパー、ドラッグストア、無印良品、習い事、バイト先の事務所、
〇〇な場所	本がある、遊び道具がたくさんある、カラオケがある、（テレビ）ゲームが置いてある、漫画を読める、プールがある、プールのように水で遊べてかつ本も読める、食べ放題、飲み物が飲み放題、アイスが置いてある、スポーツとかで盛り上がる場所、仲のよい人がいる、色々な人と関われる、共有できる話題がある、話せる人がいる、言語が通じる、お金がかからない、近くていつでも開いている、せまいところ、クーラーが効いていてイートインスペースがある、静かな場所としゃべれる場所が区切られている、遊ぶ時は遊べるし寝たいときは寝れる

#### （2）人を集めるための共通点（雰囲気・場・時）

- 目的にあったものがある。色々なものが置いてあり、飽きない
- 来る人の目的が一致している
- 自由で楽しい、明るい感じがする。一人で居たいのも自由
- にぎやかで人との関わりを持ちやすい
- 適温
- 明るさ（明るすぎず、暗すぎない）、薄暗い方が落ち着く
- 音（騒がしすぎず、静かすぎない）、館内BGM
- 適度な湿度
- 清潔感

### (3) ある場所に初めて行くきっかけ、行き続ける理由

#### ①初めて行くきっかけ

- 友人、家族の紹介
- 検索、SNSで見る、ネットの口コミ
- ポスター・本・雑誌・テレビタウン誌・地域の広報誌で紹介（必要な情報が載っていた）
- 写真がよかった
- 飲食店であれば、イベントで出店していて、それが美味しかったら本店に行く
- 値段。学生だと安いことが重要
- 場所。駅から近い、普段行く場所に近い

#### ② 行き続ける理由

- スーパー、コンビニ、学校、塾、会社など、生活する上で何度も行く必要がある（一過性のものでない）
- そこに所属し、行かないといけないうように思う
- そこに行く目的がしっかりしている
- 人間関係が良い（美容院など）
- 繰り返し見ることで価値が生まれる、毎回違う刺激がある（スポーツなど）
- 楽しかった場所（テーマパークなど）

### (4) 各世代の方への広報の方法

- 友達から紹介
- 親からの影響も大きいので、親世代をターゲットにする
- 先生から聞く、学校で説明会等を行う
- 近所の人からの紹介
- インフルエンサーから SNS で発信
- 友達が行ったと SNS、Instagram で投稿していた場所は気になる。文字ではなく画像・映像
- Instagram、YouTubeなどで広報を強化する。
- スマートニュース、Yahoo ニュースを利用する社会人は多い
- 新聞、ラジオで発信
- 新聞に折り込む、広報誌、回覧板など
- 電柱に広報を貼る
- 公民館で周知
- チラシを作る。置く場所によって雰囲気を変えてもいい
- インターネットは世界中の人をターゲットにするには適しているが、近くの人を集めるためにはピラ等を配った方がいい。自分で調べようとはしない。パッと見て活動内容がわかるといい。
- 活字は見る気にならないが、手書きの文字だと目を引く
- ピラにはインパクトのあることを書く。引っ越して初日の人に「引っ越し手伝います」、「地域の情報誌全部おいてあります」など、地域に密着した内容
- 名刺のサイズだと捨てられやすい。A3かA4程度の大きさの紙を配る。裏紙として再利用可能
- 引っ越してきた時に書類を忍ばせてもらう

(5) あおばコミュニティテラスがもっと様々な世代の人に来てもらうには

※話し合いの結果を1人が発表。5年後の生まれ変わった姿を紹介。

- 目印があって、入口がわかりやすく、入りやすい。今の外観だと、初めて来た人は、本当に入っていいのか迷う
- オープンしていることが外からはっきりわかり、導かれる感じで入ってくる事が出来る
- イベントが多く、来場者も増えている。イベントが楽しかったという人が継続的に来てくれるイベントに来たことで建物の中の雰囲気もわかってもらえる
- 「自由に来ていい」だと初めて行くにはためらう。「イベントがあるから行く」だと目的があるから初めてでも行きやすい
- 月1回「映えスポットの日」があって、写真を撮りに来る人もいる。イベントや飲食もできる
- オリンピック観戦ができる

## ●まとめ●

### 利用時間や曜日、施設・部屋・設備について

- 居心地がよいと思う場所として、「近くていつでも開いている」という声が聞かれた。また、場所に関しては、駅や普段行く場所に近いと、初めての方も来やすいという意見も上がった。
- 部屋の温度・湿度や明るさ、音などの環境面が適切であることが求められていた。特に、明るさに関しては薄暗い方が落ち着くという意見や、館内BGMがあるとよいという意見も上がった。
- 現在の外観は、初めての人が入りにくいので、目印をつけて入り口をわかりやすくするとよいという意見が上がった。

### 活動プログラム、イベント、ボランティア活動などについて

- 来る人の目的が一致しているところに人が集まる、そこに所属しているように感じるとその場所に行き続けたいと思う、という意見が上がった。居場所の機能として、各人が役割をもって活動にかかわり、所属感を感じられることが重要である。
- ある場所に行き続ける理由として、スポーツ観戦を例として、繰り返し体験することで価値が生まれる、毎回違う刺激がある、ということが上げられた。居場所での活動プログラム等の検討にあたっては、利用者が何度も行き続けたいと思えるような仕組み・内容の検討が重要である。
- イベント経由で多くの方に来てもらい、イベントで楽しかった方に継続的に来てもらうとするアイデアが聞かれた。初めて来る方は、「自由に来てもいい」よりも「イベントがあるから行く」という目的を作ってあげると来やすいという意見が上がった。
- 月に1回1回「映えスポットの日」を作り、写真を撮りに来る人を呼んではどうか、というアイデアが聞かれた。青少年の興味に沿ったイベントを開催することが重要である。

### ICT活用、広報について

- 子どもへの広報にあたっては、親や学校経由での紹介が重要とする意見があがった。
- 中高生向けの広報ではSNSでの発信が重要とする声もある一方で、インターネットでの広報は世界中の人をターゲットにするには適しているが、近隣の人に来てもらうには別の方法の検討が必要であるという意見も上がった。
- 近隣の人に周知するためには、積極的に自分で調べてもらうことは期待しにくいため、ビラなどを配るとよいという意見が上がった。また、ビラを作成する際は、活字ではなく手書きの文字、地域に密着したインパクトのある内容を盛り込む、すぐに捨てられないようA3かA4の紙にする、といったアイデアが聞かれた。



## 青少年の地域活動拠点づくり事業利用者 グループヒアリング結果

### 3. 南区青少年の地域活動拠点 M-base (南区)

ヒアリング日時	9/15 (金) 18:00~19:30
ヒアリング実施場所	横浜青年館 演劇練習室
参加者	高校生世代 5人、中学生世代 2人 計7人
オブザーバー	横浜市こども青少年局青少年育成課 2人、株式会社浜銀総合研究所 1人
ヒアリング形式	ファシリテーター：M-base 職員 ヒアリング方法： ファシリテーターを中心に、参加者から項目に沿って意見聴取

#### テーマ1 もっと利用しやすく、居心地のよい場所に

##### (1) 利用時間や曜日について

###### ① 利用している時間帯や曜日

- 放課後は、バイト、ゲームセンター、カラオケ、学校のフリースペースで過ごすことが多い。
- 学校が早く終わる日は 15 時ぐらいから。通常だと中学生は 17 時、高校生は 18 時頃から。
- マンガ教室で土曜日は 10 時から
- 夜遅くまでやっているの使いやすい

###### ② 開所時間や曜日の要望

- 月曜日は憂鬱でちょっと寄り道したい気分が多い。
- 日曜日に開いていれば友達と遊べる。(中学生)
- 休日は他のところで遊びたいから開いていても拠点には来ない。(高校生)

##### (2) M-base の施設・部屋・設備について

###### ① 現在の利用方法 (利用目的や主な過ごし方)

- 家や学校が嫌だと来る。絵を描いて勉強して。話し相手がいる、絵がうまくなりたいから来る。
- ストレスがたまるとピアノを弾きに来る。
- イラストや小説を書いたり、雑談や情報共有の場

###### ② 施設や設備、利用ルール等についての要望

- パントリーは奥まっけていて暗い。レトロなカフェスペースにしたら人が来るのでは？インスタで映えれば来る。あとはオレンジ系の間接照明とおしゃれなおじさんがいれば。
- 青年館は入るまで何があるかわからないし、全体的に無機質だから入りにくい。
- 飲み物だけでなくアイスや食べ物を売る自販機、ウォーターサーバーやきれいな冷蔵庫が欲しい。
- 学校ではカウンセリングを受けている子も多いので、カウンターやテーブル等のオープンな場所やちょっと離れた所で、堅苦しくなく気軽に大学生ボランティアが相談にのってくれたりしたら来やすい。横浜総合高校でやっている「ようこそカフェ」を参考にしたら。
- 学校のカウンセラーだと親に伝わる気がして怖い。ただ話を聞いてくれる人がいてほしい。あまり関係が出来てない人のほうが話しやすいし、いろんな人と関わる機会があるのがうれしい。
- 派手な見た目で見られるから公共の施設はあまり行かない。受け入れられない感じがある。
- 勉強目的で来ることもあるので、教えてくれる人がいるといい。学校で先生に聞くのはハードルが高い。勉強会をしたり、高校生や大学生のボランティアが小中学生に勉強を教えてはどうか。
- ここが利用できることが学校で知られていない。

### (3) 活動プログラム、イベント、ボランティア活動などについて

#### ① 過去に参加したプログラムやイベント、ボランティア活動（よかった点など）

- 縁日で水鉄砲やかき氷を作ったり、祭りでみこしを担いだりした。小さい子と関わることがあまりないので、いい経験になった。かき氷を渡してお客さんが笑ってくれたりすると嬉しかった。保護者にも感謝されやりがいを感じた。
- 文科省主催の駄菓子屋や縁日に参加。普段関わらない地域の人や大人と関わって良かった。これまでは参加する側だったイベントを運営するのが新鮮だった
- 漫画クラブは、マンガ好きな子が集まっているから趣味が合う人と話せる。絵が好きな人と好きなことを学べる。あまり描かなくてもそこにいたくなる。
- コミティアに参加した。非常に有意義で、技術面でも成長した。

#### ② イベントや活動の企画に関するアイデア（こんな活動をしたい）

- ビンゴ大会やダンス、お笑いなど、景品があると盛り上がる。
- 水鉄砲で遊ぶのは楽しかった。
- 町内会イベントもなくなっているので、イベントがあると地域の人と仲良くなる機会になる。
- 学校でやらないような理科の実験。勉強にもなるし楽しい。
- 紙芝居。地域の高齢者に聞いた話を漫画にして紙芝居にしてやる。
- 百物語や肝試し。宿泊体験。
- ツイスターゲーム、しっぽ取りなど、体動かすもの。小さいころに戻りたい子が多い。
- 浴衣着付けや髪の結い方、髪の巻き方、ネイル、メイク、スキンケアの教室。

## テーマ2 まだ来たことがない人に、来てもらうには

#### ① M-base の魅力を友達に伝えるとしたら？

- どんな人もこの環境にいていいところが M-base の強みで魅力。
- Wi-Fi がある。人と話せる。自由に使える。
- 時間余ったときにいられる場所。とりあえず行ってみて合っていたから、ずっと来ている。
- 人と関わる一歩として。バイトとかは難しいという友達が多い。
- 小さい子と関わる機会がある。保育に興味ある子は実際に関われる。
- 多世代との交流できる機会。
- 来るまでは高校生と話したこともなくて怖かった。会ったら楽しかった。
- 周囲にダンスやバレエをしている人がいるので、紹介したことがある。

#### ② インターネットやゲーム等の ICT 活用について

- 多くの中学生は TikTok をやっている。
- 高校生は友達の Instagram と X (旧 Twitter) アカウントをチェックしている。
- ゲームでポイントを貯めたらベース (拠点内通貨) と交換できるようにしてはどうか。
- 公式 LINE を作って、どんなところか一覧で見られる。ちょっとしたお悩み相談、やっているイベントを紹介。
- スマホがあるから家でも楽しい。家から出ない子が多い。コロナ以降人に会うのが億劫になっている。

### テーマ3 青年館活用のアイデアを出してみよう！

横浜青年館の活用方法を自由に設計できるとしたら

① ハード面（施設の設備、機器、道具等）で「こんな施設ならぜひ利用したい」と思うこと。

あったらいいもの：防音の音楽室、ヨギボー、こたつとみかん、貸し傘、充電器、いいイス、本棚、ソファとテーブル、大型テレビ（スクリーン）、ゲームチェア、パソコン貸出

② ソフト面（プログラム、イベント、交流内容等）で「こんな施設ならぜひ利用したい」と思うこと。

- 茶道・華道の教室。周りにやれる環境がないからやっているならのぞいてみたい。
- 卓球が自由にできたらいい。
- 音楽室は、バンド練習や合唱部が使うのでは。地区センターは利用制限がある。音楽室で外部講師の音楽スクール。
- 和室でマンガ読んで寝転がりたい。
- 映画鑑賞。みんなで映画を観たら楽しい。
- カードゲーム大会（デュエルマスターズ、遊戯王、ポケモンカード）。
- メイク、ネイル教室、スキンケアの教室。メイクは社会に出たら必要なのに習う機会がない。ネットの情報は正しいか分からない。男性もメイクをする時代。
- 絵画室で大きな模造紙にみんな絵を描いたり、書道で大きな文字を書く。

#### ●まとめ●

##### 開所時間や曜日について

中学生から、日曜日の開所を望む声があがった。休日に自宅と同じように友人とくつろげる居場所としてのニーズがあることがわかった。

##### 施設への要望について

内装や外観が明るく、おしゃれでインスタ映えするような場所が好ましく、ソファやこたつなど、リラックスできる設備が望まれている。

##### 拠点の機能について

ロビーなどオープンな場所で良いので、大学生等普段接しない人に気軽に悩みを聞いてもらいたいとの意見が多く出た。軽易であっても、相談機能が求められている。  
勉強目的で来ることもからは、学習支援機能が求められている。

##### 活動プログラムについて

イベントを通じた小学生や小さな子どもなどとの関わり合いが楽しいとの声が多かった。子どもの素直な反応とそこから得られる達成感が自己肯定感の向上につながると考えられる。  
また、地域の方など多世代との交流も貴重な経験と考える意見も多数出た。

##### 横浜青年館の活用について

音楽室を防音にしてバンド活動や合唱部の練習に利用したり、メイクやスキンケアの教室を開催したりするなどのアイデアが聞かれた。他の施設等ではカバーしにくい中高生のニーズに応えるサービスの提供が重要である。また、茶道や華道の教室といった、普段体験できないイベントへの興味もうかがえた。

## 青少年の地域活動拠点づくり事業実施要綱

制定 平成19年7月2日こ青育第287号（こども青少年局長決裁）  
最近改正 令和3年8月27日こ青育第451号（こども青少年局長決裁）

## （趣旨）

第1条 この要綱は、中・高校生世代を中心とした青少年が、安心して気軽に集い、様々な体験や交流を行うことを目的とした「青少年の地域活動拠点づくり事業（以下「事業」という。）」の実施に関する必要な事項を定めるものとする。

## （事業手法）

第2条 事業の実施については、青少年の地域活動拠点づくり事業を適切に実施することができる運営団体（以下「運営団体」という。）を選定し、事業補助を行う。

2 第1項の規定に基づき、運営団体の選定に関する事項については、市長が別途定めるものとする。

## （事業内容）

第3条 事業の内容は、次の各号に掲げるものとし、地域の支援や協力を得ながら実施するものとする。

- (1) 中・高校生世代を中心とした青少年が気軽に集い、自由に活動する場の運営
- (2) 中・高校生世代を中心とした青少年が、仲間や多世代と交流する機会の提供
- (3) 中・高校生世代を中心とした青少年を対象とした、地域資源を活用した社会参加プログラムの実施
- (4) 青少年育成に取り組む地域団体・機関及び支援者との情報交流やネットワークづくり及び人材育成
- (5) 主に中・高校生を対象とした学習支援等
- (6) その他、本市が必要と認める事業

## （実施施設）

第4条 事業は、市長が実施するに相当と認める施設（以下「実施施設」という。）において実施するものとする。

2 実施施設の床面積は原則として50～200㎡とする。

## （事業の実施）

第5条 事業の実施日は、原則として、週3日以上とする。

2 前項の規定に関わらず、次の各号に掲げる日は原則として、休業日とする。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日



- (3) 1月2日、1月3日及び12月29日から12月31日まで
- 3 事業の実施時間は、原則として午後3時から午後8時までとする。
- 4 第1項から第3項までの規定に関わらず、市長が必要と認めた時は、事業の実施方法等に応じた、実施日、休業日及び実施時間を変更することができる。

(対象者)

第6条 事業の対象者は、中・高校生世代の青少年を中心とし、多世代間の交流を促進することを目的として、その他の世代も対象とすることができる。

(事業経費)

第7条 事業の実施に要する経費は、運営団体として選定された団体の自主財源、横浜市からの補助金、各区に予算配付された事業費及びその他収入をもって充てる。

2 前項のその他収入として、事業収入、運営協力費、広告収入、協賛金など、事業の実施に要する経費として充てることができる。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、こども青少年局長が定める。

附 則

この要綱は、平成19年7月2日から施行する。

附 則

この要綱は、平成20年11月4日から施行する。

附 則

この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和3年8月27日から施行する。

## ○横浜市子ども・子育て会議条例

## (設置)

第1条 子ども・子育て支援法(平成24年法律第65号。以下「支援法」という。)第72条第1項、就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律(平成18年法律第77号。以下「認定こども園法」という。)第25条等の規定に基づき、横浜市子ども・子育て会議(以下「子育て会議」という。)を置く。

## (所掌事務)

第2条 子育て会議は、次に掲げる事務を行うものとする。

- (1) 支援法第72条第1項各号に掲げる事務を処理すること。
  - (2) 認定こども園法第17条第3項、第21条第2項及び第22条第2項並びに横浜市幼保連携型認定こども園の学級の編制、職員、設備及び運営の基準に関する条例(平成26年9月横浜市条例第46号)第4条の規定によりその権限に属させられた事項を調査審議すること。
  - (3) その他支援法第6条第1項に規定する子ども等に係る施策に関し市長が必要と認める事項を調査審議すること。
- 2 支援法第61条第1項の規定に基づく市町村子ども・子育て支援事業計画は、次世代育成支援対策推進法(平成15年法律第120号)第8条第1項の規定に基づく市町村行動計画と一体のものとして策定し、及び評価するため、子育て会議は、当該市町村行動計画の策定及び当該市町村行動計画の実施状況に係る評価についての調査審議を併せて行うものとする。

## (組織)

第3条 子育て会議は、委員20人以内をもって組織する。

- 2 委員は、支援法第7条第1項に規定する子ども・子育て支援に関し学識経験のある者その他市長が必要と認める者のうちから、市長が任命する。

## (委員の任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 委員は、再任されることができる。

## (臨時委員)

第5条 市長は、子育て会議に特別の事項を調査審議させるため必要があると認めるときは、臨時委員若干人を置くことができる。

- 2 臨時委員は、市長が必要と認める者のうちから市長が任命する。
- 3 臨時委員の任期は、当該特別の事項に関する調査審議が終了したときまでとする。

(委員長及び副委員長)

第6条 子育て会議に委員長及び副委員長1人を置く。

- 2 委員長及び副委員長は、委員の互選によって定める。
- 3 委員長は、子育て会議を代表し、会務を総理し、会議の議長となる。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第7条 子育て会議の会議は、委員長が招集する。ただし、委員長及び副委員長が選出されていないときは、市長が行う。

- 2 子育て会議は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。
- 3 子育て会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(部会)

第8条 子育て会議に、部会を置くことができる。

- 2 部会は、委員長が指名する委員又は臨時委員をもって組織する。
- 3 部会に部会長を置き、委員長が指名する。
- 4 部会長に事故があるとき、又は部会長が欠けたときは、委員長の指名する部会の委員が、その職務を代理する。
- 5 第6条第3項の規定は部会長の職務について、前条(第1項ただし書を除く。)の規定は部会の会議について、それぞれ準用する。この場合において、第6条第3項並びに前条第1項本文及び第3項中「委員長」とあるのは「部会長」と、第6条第3項及び前条中「子育て会議」とあるのは「部会」と、同条第2項及び第3項中「委員」とあるのは「部会の委員」と読み替えるものとする。

(関係者の出席等)

第9条 委員長又は部会長は、それぞれ子育て会議又は部会において必要があると認めるときは、関係者の出席を求めてその意見若しくは説明を聴き、又は関係者から必要な資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第10条 子育て会議の庶務は、こども青少年局において処理する。

(委任)

第 11 条 この条例に定めるもののほか、子育て会議の運営に関し必要な事項は、委員長が子育て会議に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

(委員の任期の特例)

2 第 3 条第 2 項の規定により平成 27 年 4 月 1 日に任命される委員の任期は、第 4 条第 1 項本文の規定にかかわらず、同日から平成 28 年 10 月 31 日までとする。

附 則(平成 26 年 9 月条例第 59 号)

(施行期日)

1 この条例は、就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律の一部を改正する法律(平成 24 年法律第 66 号)の施行の日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

(準備行為)

2 横浜市子ども・子育て会議条例第 1 条に規定する子育て会議は、この条例の施行の日前においても、就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律の一部を改正する法律による改正後の就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律(平成 18 年法律第 77 号)第 17 条第 3 項の規定によりその権限に属させられる事項について、この条例による改正後の横浜市子ども・子育て会議条例の規定の例により、調査審議することができる。

附 則(平成 27 年 2 月条例第 12 号) 抄

(施行期日)

1 この条例は、子ども・子育て支援法(平成 24 年法律第 65 号)の施行の日から施行する。ただし、附則を附則第 1 項とし、同項に見出しを付し、附則に 1 項を加える改正規定は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(令和 5 年 3 月条例第 7 号)

この条例は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

## 横浜市子ども・子育て会議運営要綱

制定 平成 27 年 3 月 5 日 こ企第1019号（局長決裁）  
最近改正 平成 30 年 8 月 1 日 こ企第142号（局長決裁）

（趣旨）

第1条 この要綱は、横浜市子ども・子育て会議条例（平成 25 年 3 月横浜市条例第 18 号。以下「条例」という。）に基づき設置される、横浜市子ども・子育て会議（以下「子育て会議」という。）の組織、運営その他必要な事項について定めるものとする。

（部会）

第2条 子育て会議は、条例第 8 条に基づき次の左欄に掲げる部会を置き、右欄に掲げる事項を調査審議する。

部会の名称	調査審議事項
子育て部会	1 横浜市子ども・子育て支援事業計画の調査審議に関する事（条例第 2 条第 1 項第 1 号及び第 2 条第 2 項関係）
保育・教育部会	1 横浜市子ども・子育て支援事業計画の調査審議に関する事（条例第 2 条第 1 項第 1 号及び第 2 条第 2 項関係） 2 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の確認及び利用定員の設定に関する事（条例第 2 条第 1 項第 1 号関係） 3 幼保連携型認定こども園の認可等に関する事（条例第 2 条第 1 項第 2 号関係） 4 幼保連携型認定こども園の整備費補助対象の審査に関する事（条例第 2 条第 1 項第 3 号関係） 5 幼保連携型認定こども園以外の認定こども園の認定に関する事（条例第 2 条第 1 項第 3 号関係） 6 幼稚園・認定こども園預かり保育事業の認定先の審査に関する事（条例第 2 条第 1 項第 3 号関係） 7 幼稚園 2 歳児受入れ推進事業実施園の審査に関する事（条例第 2 条第 1 項第 3 号関係） 8 子ども・子育て支援法に係る支給認定、利用者負担額等に関する事（条例第 2 条第 1 項第 3 号関係）
放課後部会	1 横浜市子ども・子育て支援事業計画の調査審議に関する事（条例第 2 条第 1 項第 1 号及び第 2 条第 2 項関係）
青少年部会	1 横浜市子ども・子育て支援事業計画の調査審議に関する事（条例第 2 条第 1 項第 1 号及び第 2 条第 2 項関係）

2 部会は、必要に応じ部会長が招集する。

3 保育・教育部会における次の事項の決定は、子育て会議の決定とみなす。ただし、次回の子育て会議に報告しなければならない。

- (1) 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員の設定に関する事（条例第 2 条第 1 項第 1 号関係）
- (2) 幼保連携型認定こども園の認可等に関する事（条例第 2 条第 1 項第 2 号関係）
- (3) 幼保連携型認定こども園の整備費補助対象の審査に関する事（条例第 2 条第 1

項第3号関係)

- (4) 幼保連携型認定こども園以外の認定こども園の認定に関する事(条例第2条第1項第3号関係)
- (5) 幼稚園・認定こども園預かり保育事業の認定先の審査に関する事(条例第2条第1項第3号関係)
- (6) 幼稚園2歳児受け入れ推進事業実施園の審査に関する事(条例第2条第1項第3号関係)

(委員長又は部会長の専決事項)

第3条 委員長は、軽易又は急施を要する事項で、子育て会議を招集する暇がないときは、これを専決できる。ただし、次の子育て会議に報告しなければならない。

- 2 第1項の規定は、第2条第3項について、部会長に準用する。この場合において、第1項中「委員長」とあるのは「部会長」と、第1項中「子育て会議」とあるのは「部会の会議」と読み替えるものとする。

(会議の公開)

第4条 横浜市に保有する情報の公開に関する条例(平成12年2月横浜市条例第1号)第31条の規定により、子育て会議(部会の会議を含む。)については、一般に公開するものとする。ただし、委員の承諾があれば、会議の一部又は全部を非公開とすることができる。

(意見の聴取等)

第5条 委員長は、子育て会議の運営上必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見又は説明を聴くほか、資料の提出その他必要な協力を求めることができる。

- 2 第1項の規定は、部会長に準用する。この場合において、第1項中「委員長」とあるのは「部会長」と、第1項中「子育て会議」とあるのは「部会の会議」と読み替えるものとする。

(守秘義務)

第6条 委員及び臨時委員は、職務上知り得た秘密をもらしてはならない。その身分を失った後も同様とする。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか、運営に必要な事項は、委員長が子育て会議に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成28年11月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成30年8月1日から施行する。

# 若者の悩みに **LINE** で応えます！ 「よこはま子ども・若者相談室」を開設します

様々な悩み事を抱える子ども・若者のニーズに応え、  
気軽に相談ができる LINE チャット※1 による、相談対応を開始します。  
心理カウンセラー等、専門の相談員がリアルタイムで対応します。

## 相談開始日

令和5年9月10日(日)から  
※9月10日以前でも友だち追加はできます。

## LINE 公式アカウント名

「よこはま子ども・若者相談室」

## 選べる相談メニュー

- ・総合相談 …友人関係や進学・就職など  
悩みごと全般のご相談
- ・ひきこもり相談 …ひきこもりに関するご相談

## 相談できる方

横浜市内在住の子ども・若者やそのご家族

## 相談受付日時

月曜日、水曜日、日曜日(12月29日～1月3日を除く)  
14時から21時

## 相談開始方法

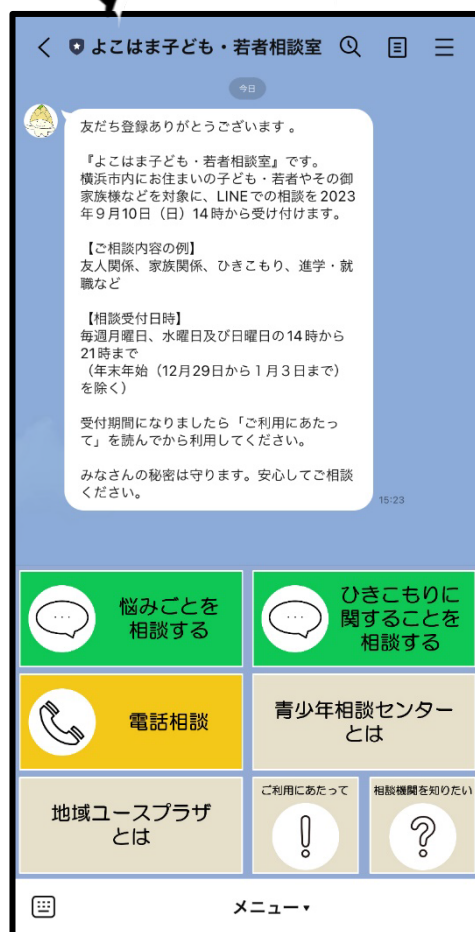
二次元コードから  
「友だち追加」をしてください。



相談は**無料**です

※通信料は自己負担となります。

秘密は守ります



トーク画面イメージ

※1 LINE チャット  
LINE 公式アカウントを開設している企業や店舗が、日常的に使っている LINE アプリのトーク機能を通じて、友だちになっているユーザー一人ひとりとコミュニケーションが取れる機能

お問合せ先

こども青少年局青少年育成課長 森脇 美也子 Tel 045-671-2297